



三愛病院／老人保健施設 あうん高知

三愛病院

院長挨拶	143
概 要	144
部署責任者一覧	145
医師一覧	146
職員数一覧	146
年次報告	147
診療部	147
看護部	153
医療技術部門	158
事務部	167
在宅部門	172
医療安全(感染)管理部門	175

老人保健施設 あうん高知

概 要	178
年次報告	178
入所	178
通所リハビリテーション 「デイケア・ファイト」.....	180

三愛病院／老人保健施設 あうん高知

委員会	182
院内発表会	186
診療実績・業務実績統計	187
業績一覧	195
実習・研修生	198

中 村 寿 宏



2023（令和5）年の医療機関は新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の予防・診療に対して多くの医療資源を割いていた時期から、通常診療中心に次第にシフトしていく1年となりました。当院においては、COVID-19流行の増加期には発熱外来受診者は増加、それ以外の外来受診者はやや減少傾向となったものの、この3年間では外来受診者総数に大きな変動はありませんでした。

また9月末でCOVID-19の重点受け入れ病院の役割を終えたため、専用病棟としていた38床の病棟を通常の一般病棟に復帰させることになり、10月から取り組みましたが、思うように進まず経営的には厳しい年になりました。年度末には目標稼働率をほぼ達成し、ようやく入院診療もCOVID-19前の稼働状況に戻ることができました。

とは言えCOVID-19感染症はなくなったわけではなく、感染予防対策を継続しながら業務を行いました。行動制限については今後も流行状況などを見極めながら緩和したり、強化をしたりせざるを得ないと考えられます。

この3年間、院内での会議・研修会・研究発表会などはWEB会議形式あるいはビデオ視聴などに制限していましたが、対面形式に徐々に移行してきました。WEB形式は感染予防・移動時間解消などの利点があり今後も利用したいツールですが、研究発表会などでは臨場感が得られる対面形式が良いと改めて感じました。今後は使い分けていくことになるでしょう。

院外での変化としては、コロナ前に行われていた健康教室の開催、清掃活動やふれあい祭りへの参加など地域交流が復活しました。

さて介護医療院さんあいでは介護ソフトを導入しました。これはあうん高知ですでに導入し稼働しているものです。これにより業務時間短縮・情報共有などに役立つものと思います。

以上のように三愛病院グループも確実に通常運転に近づいてきています。これからも日常の業務を丁寧に行い地域医療に引き続き貢献していく所存です。また診療の充実に加えて災害対策、サイバーセキュリティ対策などにも取り組んでいこうと思います。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と
デイサービスいろは

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

概 要

1. 理念・基本方針

仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

三愛病院の基本方針

私たちは、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

2. 施設とその内容

①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡

建物面積：1,559.73㎡

②施設の内容（各階の目的、機能別）

4 F 介護医療院さんあい

2・3 F 愛1・2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1

特殊疾患入院施設管理加算

うち10床地域包括ケア入院医療管理料1

うち38床重点医療機関確保病床

うち16床入院協力医療機関確保病床（令和5年10月1日～令和6年3月31日）

1 F 外来診療部門、医療技術部門、事務部門

3. 標榜科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科、放射線科、皮膚科、整形外科、精神科、泌尿器科、
循環器内科、訪問診療科、リハビリテーション科

4. 許可病床数

98床（愛1病棟・愛2病棟併せて）



三愛病院



中庭の風景

部署責任者一覧

令和6年3月31日現在

院長	中村 寿宏
副院長	坂本 賢司
診療部	
医局長／小児科長	橋 詰 稔
内科科長	中 川 治
内科科長	小野寺 真智
内科科長	品 原 正幸
放射線科科長	岩 井 智 郎
看護部	
看護部長	濱 名 郁 里
医療安全対策室看護師長	中 平 好 昭
愛1病棟看護師長	細 川 亜里沙
愛2病棟看護師長	三 谷 理 恵
介護医療院さんあい看護師長	大 石 陵 子
外来看護師長	片 岡 典 代
在宅部門	
居宅介護支援事業所「一宮」主任	和 田 真 樹
グループホームいろは丸主任	野 町 喜 代
デイサービスいろは	宮 内 清
高知市布師田・一宮地域包括支援センター	小 松 めぐみ

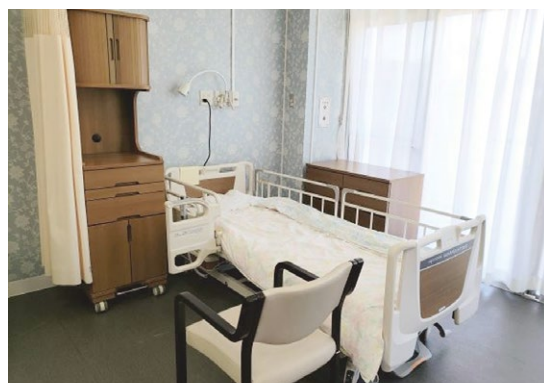
介護老人保健施設あうん高知	
施設長	細 木 秀 美
副施設長	小 松 雅 理
入所介護主任	嶋 崎 由 季
通所介護主任	三 浦 恵 子
医療技術部門	
薬剤室室長	小 野 正 英
放射線室主任	廣 田 任 成
臨床検査室主任	岡 林 妙 子
リハビリテーション課課長	門 脇 貴 代
理学療法室主任	濱 田 くるみ
作業療法室主任	竹 倉 佐和子
言語聴覚室主任	谷 口 桃 子
栄養管理室主任	石 山 由 香
地域医療連携室看護師長	戸 田 里 子
事務部	
事務部長	植 田 宏 平
総務課長	猪 森 清 明
医事課主任	小 田 雅 代
診療情報管理室主任	山 本 淑 恵



三愛病院 中庭の風景



老人保健施設 あうん高知



老人保健施設 あうん高知

医師一覧

令和6年3月31日現在

理事長（内科）	細 木 秀 美
内 科	
内 科	中 村 寿 宏
	坂 本 賢 司
	中 川 治
	小野寺 真 智
	品 原 正 幸
	森 下 美智子
	岩 崎 泰 正（非常勤）
	上 村 千鶴子（非常勤）
	廣 瀬 友 佳（非常勤）
	安 田 早佑理（非常勤）
	寺 田 潤 紀（非常勤）
	大 原 慶 斗（非常勤）
	津 下 典 子（非常勤）
	吉 本 龍太郎（非常勤）
小児科	
小児科	橋 詰 稔
	上 村 智 子（非常勤）
	前 田 美 咲（非常勤）

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科	横 畠 悦 子
	奥 谷 文 乃（非常勤）
	柳 原 弘 男（非常勤）
	宮 内 敦 史（非常勤）
	大 津 信 也（非常勤）

放射線科

放射線科	岩 井 智 郎
------	---------

皮膚科

皮膚科	安 井 喜 美
	池 田 光 徳（非常勤）

整形外科

整形外科	森 田 稜 二（非常勤）
	泉 仁（非常勤）
	南 場 寛 文（非常勤）

精神科

不眠外来	森 田 啓 史（非常勤）
------	--------------

泌尿器科

泌尿器科	山 本 志 雄（非常勤）
------	--------------

循環器内科

循環器内科	西 本 美 香（非常勤）
-------	--------------

訪問診療科

訪問診療科	担 当 医
-------	-------

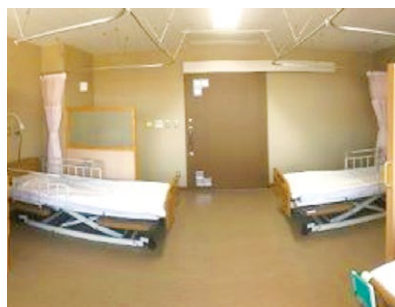
職員数一覧

令和6年3月31日現在

医師	14	臨床検査技師	3	管理栄養士	4
看護師	82	理学療法士	12	事務員	34
准看護師	15	作業療法士	6	技能員	4
介護福祉士	65	言語聴覚士	5	理学療法助手	0
看護助手	22	ソーシャルワーカー	6	保育士	2
薬剤師	4	社会福祉主事	2	計	286
診療放射線技師	2	支援相談員	4		



中庭の風景



介護医療院さんあい

診療部



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会



内科



院長
中村 寿宏



副院長
坂本 賢司



内科長
中川 治



内科長
品原 正幸



内科長
小野寺 真智



内科医師
森下 美智子

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来診療に関しては、高知大学医学部の医局からのご支援をいただいております。常勤医師とともに一般内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器・感染症内科、消化器内科の診療体制が継続できています。また細木病院のご支援により循環器外来の診療体制も継続できています。このほか肥満外来、漢方外来、内視鏡検査などを行っている。今年度の内科系外来のべ患者数は、6月・7月と院内クラスター発生による制限を受けつつも前年比105%の13,265人と増加を認めた。通常の医療と新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療

を両立して対応を行っているが、2024（令和6）年に入ってから久しぶりのインフルエンザ流行もあり、有熱者外来ではのべ1,623名の受診と前年度（1,119名）に比べかなりの増加を認めた。うち1,346名で新型コロナウイルス感染症検査（抗原検査840名・核酸増幅検査506名）を実施した。また、新型コロナワクチン接種については、2023（令和5）年度で1,367件の接種を行った。

2. 入院診療では、内科診療は6名の内科医師で担当した。新型コロナウイルス感染症診療についても、5類への移行後は各担当医で対応していた。褥瘡治療や認知症診療などが必要な場合は、皮膚科、もの忘れ外来などに診療を依頼した。令和3年9月から新型コロナウイルス感染症重点医療機関への体制変更（愛1病棟38床（障害者病床30床、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病床8床）、愛2病棟60床（障害者病床50床、地域包括ケア病床10床））を行っていたが、令和5年10月から新型コロナウイルス感染症に対する特例措置の大幅な変更を受け病棟再編を行い（愛1病棟53床（障害者病床43床、地域包括ケア病床10床）、愛2病棟45床（障害者病床45床））、愛1・愛2病棟での病床稼働率は66.9%（前年55.5%）、1日当たり患者数65.6人（前年54.4人）と増加した。介護医療院さんあいでは病床稼働率は85.1%（前年

82.7%)、1日当たり患者数40.9人（前年39.7人）であった。

- 地域包括ケアを念頭に、一宮地域を中心に在宅（高齢者施設を含む）患者への訪問診療を行っている。訪問診療科では毎月2～4名の医師が担当し診療にあたっている。令和5年度の訪問診療延べ数は176件であった。

2 今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から法律上の位置付けが「2類相当」から「5類」に移行した後、10月からの特例措置の大幅な変更を経て令和6年4月からは通常の医療体制へと移行している。発生初期と比較して重症度は低下しているが、感染力などの性質が変わるわけではなく、特に入院患者では重症化リスクが高く、引き続き院内感染防止に努めつつ、有熱者外来や新型コロナウイルス感染症患者の治療を行っていく。
- 通常の医療についても、地域のかかりつけ病院として外来診療や訪問診療、障害者病棟・地域包括ケア病棟への入院による在宅復帰支援や長期療養、介護医療院さんあいへの入所による医療ニーズのある要介護の高齢者さまの生活に対する医療と介護両面での支援など、引き続き対応していく。

3 常勤医師の氏名

中村 寿宏
坂本 賢司
中川 治
小野寺 真智
品原 正幸
森下 美智子

4 非常勤医師の氏名

【内科】

細木 秀美
上村 千鶴子
岩崎 泰正
小笠原 史也（～令和5年9月30日）
廣瀬 友佳（令和5年4月1日～）
安田 早佑理
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
寺田 潤紀
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
吉本 龍太郎
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
津下 典子（令和5年10月1日～）
大原 慶斗
（令和5年10月1日～令和6年3月31日）

（文責：科長 品原 正幸）



循環器内科



循環器内科
西本 美香

1 活動内容・目標に対する達成状況

- 週1回午前中の外来診療を行っている。令和5年度の患者数は346人で前年比97%とほぼ変化がなかった。
- 当院ではできない精査が必要な患者さんを専門病院に紹介することができた。

- 検査技師による心エコーも定着し、循環器内科不在時の検査として大変助かっている。

2 今後の課題

- 患者数は前年とほぼ変化がなく維持できている。
- 引き続き、心エコーやホルター心電図などの検査件数増加に努める。

3 非常勤医師の氏名

西本 美香（令和2年7月～）

（文責：循環器内科 西本 美香）



小児科



医局長／小児科長
橋詰 稔

1 活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

令和5年度の患者数は昨年度比10%増であった。C O V I D-19の流行による受診控えと、全ての感染症の減少による患者数の減少からやや回復している。

一方小児発熱外来の患者数は3,029名（前年比131名増）であった。C O V I D-19 P C R検査を112名（756名減）、抗原検査を1,952名（306名増）施行した。

小児保健関連では、地域の保育園健診（一宮保育園、あゆみ保育園）、幼稚園健診（一宮幼稚園）に出向いた。病後児保育はC O V I D-19の流行のため、受け入れ

を制限したため減少したままである。高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

2 今後の課題

5類扱いとなったC O V I D-19に対する診療体制を再構築し、通常診療に移行しながら収益を確保していく。

3 常勤医師の氏名

橋詰 稔

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

上村 智子（令和5年4月1日～）

前田 美咲

（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（文責：医局長／小児科長 橋詰 稔）



耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科
横畠 悦子

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 2022（令和4）年度と同じく横畠が耳鼻咽喉科診療を担当した。2024（令和6）年1月より火曜日を全日休診に変更した。また、土曜日の高知大耳鼻咽喉科からの診療応援を隔週から毎週に変更していただいた。

診療内容は大きくは変わらず、耳鼻咽喉科一般外来とともに月2回の補聴器外来は継続している。

2. 2022（令和4）年の総患者数は前年度比118% 5,131人であった。徐々にではあるが、コロナ禍前の状態にもどってきている。また、発熱外来は160件対応した。鼻咽腔喉頭内視鏡検査件数も2022（令和4）年時より大幅に増加した。

3. 睡眠時無呼吸の簡易検査機器更新に伴い、検査数の増加を目標にしていたが、1年間で8件であった。

2 今後の課題

1. 昨年と同様に睡眠時無呼吸簡易検査件数を増やしていきたい。その結果、精査が必要な患者さんに対し、入院での睡眠時無呼吸検査の導入をしたいと考えている。
2. 外来患者数の増加維持に努める

3 常勤医師の氏名

横畠 悦子

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部耳鼻咽喉科

池永 弘之

（令和5年4月1日～令和5年12月31日）

宮内 敦史

（令和5年10月1日～令和6年3月31日）

奥谷 文乃

（令和6年1月1日～令和6年3月31日）

大津 信也

（令和6年1月1日～令和6年3月31日）

柳原 弘男

（令和6年1月1日～令和6年3月31日）

（文責：耳鼻咽喉科医師 横畠 悦子）



放射線科



放射線科長
岩井 智郎

1 活動内容・目標に対する達成状況

当科では、整形外科・耳鼻科関係を除く単純撮影画像の読影、CT画像の読影、上部消化管造影検査を行っている。また、健診室の診察業務を担当している。

フィルムレスシステム・電子カルテシステムの正常な稼働、放射線室や健診室など関連部門の尽力に支えられ、大過なく業務が行えていると思われるが、各例の読影の完了までにどうしても時間を要し、診療業務

に停滞をもたらすことがあることを遺憾とする。

2 今後の課題

各関係部門の日常の業務でのご協力に感謝したい。

読影結果を迅速に提供したいところであるが、読影の質を落とさないため、時間を要することをご容赦いただきたい。

ポストコロナ後も健診利用者がある程度確保できている。今後の利用者確保に努めたい。

3 常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：科長 岩井 智郎)



皮膚科



皮膚科
安井 喜美

1 活動内容・目標に対する達成状況

令和4年4月より月・火・水・金の午前・午後に外来診療を行っている。土曜日の午前は池田医師が担当している。令和5年12月より火曜日の診療が午後のみとなったため、診療時間が短くなっている。原則予約制としているため、予約の方は待ち時間が少ない。外科的なこととしては、小手術、皮膚切開、皮膚生検などを行っている。また入院患者さんの診察、褥瘡回診を

行っている。

2 今後の課題

近くに一宮皮膚科があるため、患者さんが分散する状況である。当院では血液検査を行いやすく、内科をはじめとした他科とも併診できるというメリットを生かして患者数を増やしたいと考えている。

3 常勤医師の氏名

安井 喜美

4 非常勤医師の氏名

池田 光徳

(文責：皮膚科医師 安井 喜美)



整形外科



整形外科医師
森田 穰二

1 活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は、毎日午前中で月、土は高知大学医学部整形外科教室よりの派遣医師が交代で、水、金は森田

穰二が担当している。地域医療に十分貢献できているが、心配な点もある。本科もコロナの影響が大きい。

2 今後の課題

入院を要する高齢者が来院された際の対応に苦心する際は、いつも「本店」のお世話になっている。

3 非常勤医師の氏名

森田 穰二

高知大学医学部 派遣医師



泌尿器科



泌尿器科医師
山本 志雄

①活動内容・目標に対する達成状況

三愛病院では、週2枠 火曜日の午後と金曜日の午前を担当しています。

専門は一般泌尿器科、腫瘍、感染、小児泌尿器科、尿路結石、神経因性膀胱、過活動膀胱などの排尿障害です。

排尿管理は薬物療法、カテーテル管理、自己導尿、排尿誘導など指導しています。

近年はカテーテル管理の入院患者が増加しています。

外来患者数は各月前年比100%を超えており、徐々に増加傾向です。

泌尿器科の存在が地域の患者さまに浸透してきている所です。

血液検査、超音波検査、CTを駆使し、前立腺がん、膀胱がんなどの早期発見を行い、高知大学附属病院や近森病院と連携しております。

②今後の課題

地域に根ざした病院の特性と主要機関との連携を十分に発揮し、個々の患者さまに最適の、最新の治療が可能な病院を目指します。

③非常勤医師の氏名

山本 志雄

（文責：非常勤医師 山本 志雄）



精神科

①活動内容・目標に対する達成状況

高知大学精神科医局より、森田啓史が精神科外来を毎週木曜日午前に行っている。外来診療と同時に、入院患者および介護老人保健施設あうん高知入所中の精神症状を認める患者さんの診察を担当している。加えて、内科入院中に突然発症した精神症状への対応も行っている。精神症状は心理的な要因のみではなく、身体的な異常で生じることがあるため、心理検査、血液検査や頭部画像検査などを組み合わせた診察を行いながら、患者さんが地域で安心して生活できるように、ケアマネージャーや保健師、その他の医療従事者との連携を行っている。

②今後の課題

令和元年度までは当科の医師は2名であったが、令和2年度からは1人となっている。よって、マンパワーの不足が課題である。加えて、当院には精神科の病床がないため、入院を要する精神症状を有した患者さんが外来を受診した際の、迅速な対応も課題と考える。

③非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院

精神科 病院助教 森田 啓史

（文責：非常勤医師 森田 啓史）



健診室

①活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

①健康診断

生活習慣病予防健診（協会けんぽ）

特定健康診査（特定健診）

事業主健診（企業健診）

人間ドック、大腸がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診（個人健診）

②職員健診

職員の定期健康診断、新採用者・中途採用者の健診

目標達成状況

健診者延べ数（6月・12月職員健診含む）

令和2年度 健診件数：1,189件

令和3年度 健診件数：1,343件

令和4年度 健診件数：1,415件

令和5年度 健診件数：1,405件

新型コロナウイルス感染症発生以前の令和2年度あたりと比較すると、昨年度同様、受診控えの影響は減少した。令和2年度比では118%、令和4年度比ではほぼ横ばい状態となった。

2 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響もほぼなくなってきている。コロナ前の受診者数と比較してもだんだんと受診数は戻ってきている。今後も受診者のニーズに応えな

がら、受付や会計時のスムーズな誘導、待ち時間の快適性や接遇にも力を入れ、地域医療を担う病院として生活習慣病予防、疾病の早期発見に努めていきたい。

3 常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：放射線科長 岩井 智郎)

看護部



看護部長
瀧名 郁里



1 概要

病棟形態：

愛1病棟（障害者施設等一般病棟10：1）

愛2病棟（障害者施設等一般病棟10：1）

介護医療院さんあい（I型介護医療院）

外来、看護部長室

病床数：障害者施設等一般病床 88床

地域包括ケア病床 10床

介護医療院 48床

所属長名：瀧名 郁里

構成職員：看護師 1名

事務員 4名

（医局秘書 1名

医師事務作業補助者 2名）

合計人数 5名

2 2023（令和5）年度 目的・目標

1. 患者満足度の向上、経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改
3. 質の高い看護・介護職員の育成

3 目標に対する取り組み

1. 今年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことを受け、緊急時の体制から平時の体制へと、大きく転換する1年であった。外来では早くより発熱外来の制限を中止し、なるべく多くの発熱患者さんを受け入れることができるように体制を整えた。また、病棟では制限していた入院患者数を平時に戻し、地域に根付いた病院と

して、入院・入所の受け入れを積極的に行った。

2. 看護部における働き方改革では、看護部職員のワークライフバランスの取り組みを、4年間継続して実施している。タスクシフト／シェアの実施や業務の効率化を行い、看護ケアの向上に努めた。また、残業時間の削減や有給休暇の所得率向上も図られた。

3. 質の高い看護・介護職員の育成では、今年度もWEB研修やeラーニングを活用し研修参加を行ってきた。今年度は1名の看護師が認定看護師教育課程（B過程）感染管理分野を受講し、もう1名の看護師が特定行為研修（栄養および水分管理に係る薬剤投与関連／創傷管理関連）を受講した。

これにより、院内には糖尿病看護認定看護師1名、特定行為看護師2名が在籍することとなり、特定行為の実践や、看護師教育など、今後の活躍が期待される。

4 次年度の課題

1. 変化への対応と経営基盤の安定・強化
2. 看護部における働き方改革
3. 質の高い看護・介護職員の育成

（文責：看護部長 瀧名 郁里）



愛1病棟

1 概要

病棟形態：

障害者施設等一般病棟

（10：1入院基本料）・

地域包括ケア病床

（13：1入院基本料）

病床数：53床

（地域包括ケア病床10床）

所属長名：細川 亜里沙

構成職員：看護師 21名

准看護師 3名

介護福祉士 3名

看護助手 2名

クラーク 1名

合計人数 30名

2 2023（令和5）年度 目的・目標

1. ウイズコロナに順応した病棟運営
2. 働きやすい職場環境の構築
3. 人材育成

3 目標に対する取り組み

1. 令和5年度平均稼働率は39.48%、障害率は90.62%であった。令和4年度に引き続き10月まではコロナ受け入れ重点医療機関として稼働していたため、稼働率は低い数値となった。しかし、11月以降は病棟編成により入院患者を増やしていき、3月末には80%まで上昇することができた。令和5年4月から10月までのコロナ陽性患者の受け入れは19名であり、感染対策の徹底により感染拡大などは見られなかった。

病棟編成に向けた取り組みでは、細かな業務内容の擦り合わせや入院患者数に応じた業務改善が迅速に求められる中、スタッフ一同、共通認識をもち体制整備に協力することができた。

また、課題に対してはその都度、現場の意見を尊重しながら業務改善に反映させることができた。入院患者数の急激な増加により多忙な状況の中、他職種をはじめとしたスタッフ間での情報交換を積極的に行うことで、チームとしての実践力を高めるとともに、ケアの質の向上に取り組むことができた。

2. 年間有給休暇取得率は82%であり前年度と比較すると減少はしているが、目標の70%はクリアできた。病棟編成による入院患者数の増加に伴い、入院患者超過勤務は増加する形となった。各自が働きやすい環境づくりを念頭において、社



会人としての協調性、コミュニケーション能力を発揮し連携を図って協働できるように努めたが、病棟編成に伴いスタッフが急激に増加したことで個人差が露呈し、指導を要する場面も見られた。また、個人のWBLに応じて勤務配慮を行い、モチベーションの維持に努めることができた。

3. 新入職員や中途採用者には進捗状況を確認しながら個々に沿った指導を行うことができた。引き続き、業務の進捗状況と正確性を確認しながら教育内容の評価・修正を行い計画的に進めていく必要がある。中堅看護師の育成の機会が少なく、研修への参加も個人差が目立った。院内の研修やe-ラーニングを活用し知識、技術の向上に努める。委員会や病棟係については、病棟編成に伴う患者数の増加により活動が十分にできていなかった部分があった。メンバー間で役割分担や連携を行い効果的な活動につなげていく必要がある。

4 次年度の課題

1. 安定した病床稼働率の維持
2. 働きやすい職場環境の構築
3. 人材育成

2023（令和5）年度【部署名：愛1病棟】勉強会

月	テーマ	分散教育担当者
4月		
5月	障害病棟とは	衆名主任、諏訪主任
6月		
7月	重症度、医療看護必要度の記録と評価	藤本看護師、川崎看護師
8月		
9月	高齢者虐待／身体拘束防止	岡林看護師、松本准看護師
10月		
11月	認知症看護／事例検討	鎌倉看護師、岡崎准看護師
12月		
1月	ACPとエンゼルケア	大原看護師、武田看護師
2月		
3月	事故対策とヒヤリハット（自部署の傾向と対策について）	諏訪主任、西森看護師

（文責：看護師長 細川 亜里沙）



愛2病棟

1 概要

病棟形態：
障害者施設等一般病棟
(10対1入院基本料)
病 床 数：45床
所属長名：三谷 理恵
構成職員：
看護師 24名
准看護師 1名
介護福祉士 3名
看護助手 2名
クーク 1名
合計人数 31名



2 2023年（令和5）年度 目的・目標

1. ポストコロナに順応した病棟稼働率の安定化
2. 働きやすい職場風土の構築
3. 質の高い個性のあるケア提供ができる

3 目標に対する取り組み

1. 令和5年度の平均障害率は90.8%、平均稼働率は86%で、目標の90%以上を達成できなかった。要因としては、6月に新型コロナクラスター発生の影響で、患者数が落ち込んでいたことが考えられる。下期11月に病棟再編で愛1病棟へ2階フロアの15床（地域包括ケア病床10床）が転出となった。1月から2月にかけてインフルエンザの罹患者が出たが拡大することなく終息した。感染対策も状況に合わせ感染委員に確認しながら、病棟で統一した対策ができるよう努めている。2月以降は、入院相談会での情報共有、地域医療連携室の協力を得ながら入院の受け入れを行い、稼働率90%以上を保っている。
2. 病棟再編により、再び職員の異動があり、加えて、

職員の異動や退職が数名出てしまったが、実習生の受け入れや、そこに専念できるような配慮、チームを超えて声を掛け合いながら、業務を行っている。体調不良時は、早めの勤務変更で対応するなど、協力して業務を行えた。まだまだ声掛けや協働部分に課題があり、タスクシフティングを考えた業務改善も必要。

3. 研修についてはオンライン研修を活用し受講するスタッフも増えてきたが、限られたスタッフの受講となっており、他スタッフへも促していくことが必要。不安の強い家族については多職種の協力を得ながら話し合い、チーム間でさらに共有し統一したケアを行うことで家族の不安の緩和に努めた。

人材育成については皆で情報を共有し個人のペースを考え、できる業務を増やすことができた。まだまだ、課題はあるため状況を見ながら、育成していく。

4 次年度の課題

1. 新たな感染対策に順応した病棟稼働率の安定化

2023（令和5）年度【部署名：愛2病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月		
5月	地域包括・障害者病棟について	印藤副看護師長・市川副看護師長
6月		
7月	重症度、医療・看護必要度	嵐看護主任・松山看護主任
8月		
9月	身体拘束・高齢者虐待防止について	山本介護主任・宮地介護主任・別役介護福祉士・北村看護助手
10月		
11月	認知症看護・事例検討、事例検討を通じたケア方法と関わり方	東看護師・門田看護師・南看護師
12月		
1月	A C Pとエンゼルケアについて	白川看護師・森看護師
2月		
3月	災害対策、災害時対応、トリアージについて	大石看護師・山崎看護師

- 働きやすい職場風土の構築
- 質の高い個性のあるケア提供ができる

(文責：看護師長 三谷 理恵)



介護医療院さんあい

1 概要

病棟形態：Ⅰ型介護医療院
 病床数：48名
 所属長名：大石 陵子
 構成職員：看護師 11名
 准看護師 2名
 介護福祉士 12名
 看護助手 1名
 事務員 1名
 介護支援専門員 1名
 合計人数 28名



2 2023（令和5）年度 目的・目標

- Ⅰ型介護医療院施設基準の維持 平均入所者45名以上を目指す
介護ソフト導入に関して必要な事項に取り組み、関連部署とも協力する
- 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
- スタッフ定着のためWLBも考えた労務環境の改善を提供

用していけるよう調整していく。

介護ソフト導入については、マニュアル作成や個々の努力、コメディカルの協力もあり、必要な事項はその都度対応してきた。

- 職種間での情報共有や、自己研鑽がもう少し必要であったと感じる。
- 働きやすい職場風土や環境づくりは意識していたものの超過勤務も多く、次年度への持ち越し目標とした。

3 目標に対する取り組み

- 介護医療院さんあいの令和5年度の平均入所者数は40.84人、平均稼働率は85.25%となった。5月には新型コロナウイルスが5類へ移行はしたものの、6月にはクラスター発生に伴い、数カ月稼働率が落ちてしまった。入所者・家族にはご迷惑もかけたが、面会の段階的な拡充など、徐々に以前のような状態に戻ってきている。また、令和6年度は4月・5月と46～47床と高い稼働率で経過できるようになった。今後も高い稼働率を維持し運

4 次年度の課題

- Ⅰ型介護医療院の施設基準の維持
4月からの主治医新規体制による、運用の調整や必要な委員会などの立ち上げへの取り組み・参加
地域活動への参加
- 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
- スタッフ定着のためWLBも考えた労務環境の改善
働きやすい職場づくり、超過勤務を減少できるよう業務内容や役割分担の検討

2023（令和5）年度【部署名：介護医療院さんあい】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	・ブルーコール／急変時対応	楠瀬准看護師／伊藤看護師
5月	・医療／介護事故防止時の対応	伊豆丸看護師主任／平野看護師
6月	・受け持ち記録物について ・高齢者虐待防止／身体拘束適正化	関ケアマネージャー／浅野介護福祉士
7月	・記録（当院の記録に関するルール）	田淵看護師／楠瀬准看護師
8月	・褥瘡／MDRPU予防／創傷管理 ・ポジショニング／クッション管理	芝看護師／井上介護福祉士
9月	・接遇／倫理・プライバシー保護	藪内クラーク／土居准看護師
10月	・感染管理／食中毒	戸田看護師／森本介護福祉士
11月	・災害時対応	津野看護師／上島看護師
12月	・排泄ケア	森本介護福祉士／細木介護福祉士
1月	・認知症ケア／不適切ケア	篠原介護福祉士／大塚介護福祉士
2月	・看取りケア／エンゼルケア（ACPについても）	秋山看護師
3月	・自立支援／レクリエーション	大山看護師／森本介護福祉士

(文責：看護師長 大石 陵子)



外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

1 概要

病棟形態：外来

所属長名：片岡 典代

構成職員：看護師 10名
准看護師 3名
介護福祉士 1名
保育士 2名
看護助手 1名
合計人数 17名



2 2023（令和5）年度 目的・目標

- 安全で安心できる質の高い看護・保育を提供する
 - Withコロナ（新型コロナウイルスとの併存）における、感染対策を考慮した外来看護・病児保育を提供する
 - 一人ひとりが自分らしく働きながら専門性を発揮し、自己実現できる職場環境・風土をつくる
 - 他職種と連携をとりながら患者の療養生活支援につなげる
- Withコロナ（新型コロナウイルスとの併存）における、外来を再構築する
 - 1日外来患者数180名を目指し、他部署との連携を強化する
 - Withコロナ（新型コロナウイルスとの併存）における、愛あいルーム受け入れ体制を構築し利用者を増やす
 - タスクシフティング(タスクシェアリング)に取り組み、業務移管・共同化できるような環境を整える
- 働きやすい職場環境を整える
 - 一人ひとりの健康支援に取り組む職場環境・風土づくりになるように環境を整える
 - ワーク・ライフ・バランスを意識した業務遂行に取

り組む

- ③声を掛け合い助け合う風土を構築する

3 目標に対する取り組み

- 感染対策に留意し、手順にそって看護・保育を実践した。また、自己研鑽に努め院内外で活動・報告を行うことができた。
- 目標外来患者数は、1日外来患者数180名だったが、診療日、診療時間の減少などもあり月平均127名で、達成できなかった。病児保育の受け入れは、増加し延べ352名利用した(令和4年度72名)。
- 退職者は2名だった。定年退職や家庭の都合などやむを得ない状況だと判断した。年間5日の有給休暇を取得し、公平な有給消化を目指した。職員同士お互いが、声掛けを行い他部署への助勤協力ができる環境になっている。

4 次年度の課題

- 変化への挑戦
- 在宅部門・院外の介護・看護との連携強化を図る
- 診療報酬改定に伴う、加算対応を図る

2023（令和5）年度【部署名：外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	患者相談・苦情対応	ナーシングスキルライト聴講
5月		
6月	アドバンス・ケア・プランニングとは？～人生の最終段階における医師の決定プロセスに関するガイドラインを踏まえて～	ナーシングスキルライト聴講
7月		
8月	急変対応	ナーシングスキルライト聴講
9月		
10月	マネジメントに必要なスキル	ナーシングスキルライト聴講
11月		
12月	認知症とは何か：病態と治療について	ナーシングスキルライト聴講
1月		
2月	暴力・ハラスメント対策（基礎編）	ナーシングスキルライト聴講
3月	暴力・ハラスメント対策（発展編）	ナーシングスキルライト聴講

（文責：外来師長 片岡 典代）

医療技術部門



薬剤室

1 概要

所属長名：小野 正英
 構成職員：薬剤師 4名
 事務員 1名
 合計人数 5名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

- ①適正な医薬品管理
 後発医薬品の使用を進める（80%以上維持）
 破損・期限切れ医薬品を減少させる
- ②相手を思いやる・尊敬する

2. 薬剤の保管・管理の検討

令和5年度も令和4年度と同様に後発医薬品の出荷停止や出荷調整の影響が続いており、安定供給ができる代替後発医薬品を揃えることが難しく一部の医薬品において、やむを得ず先発医薬品に変更せざるを得ない状況となった。しかしながら、「診療報酬における加算等の算定対象から除外する品目リスト」を参照し、後発医薬品の使用率は82.8%となった。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことより、徐々に処方箋枚数および件数が増え、内服・外用薬の入院処方箋枚数は令和5年度が6,115枚で令和4年度の5,574枚と比べ増えた。また注射薬の処方箋枚数は令和5年度が7,878枚で令和4年度の8,425枚と比べて減少した。これは令和5年度の病床再編に伴い通常の医療提供体制に戻ってきたことが影響したと考えられる。



3 今後の課題

令和5年10月より薬剤助手がけがで欠勤となり、また令和6年1月からは薬剤師が退職となった。薬剤師が欠員となった場合は、他の薬剤師で補えるが、薬剤助手の業務は主に1人で行う仕事であり、薬局では欠かせることのできない人員であると考えている。この薬剤助手の仕事のうち、「在庫状況をPCへ入力する業務」と「医薬品の病棟への搬送」は、医事課の職員に手伝っていただくこととなった。薬局では令和6年度は人員不足にならないようにするためにも、「三方よし（ハッピー）」と「相手を思いやる・尊敬する」を大切に思い、薬局業務について取り組んでいきたいと考えている。

（文責：室長 小野 正英）



放射線室

1 概要

所属長名：廣田 任成
 構成職員：診療放射線技師 2名
 合計人数 2名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 今年度の目標であった、胃透視検査、CT検査の件数増加については、新型コロナウイルスの影響が軽減されたこともあり、胃透視検査、CT検査ともに増加した（CT検査に関しては他病院からの依頼回復が大きな要因であると考え）。昨年度と比較して全体で14%増加した（一般撮影16%増加、CT検査44%増加、US18%増加、胃



透視検査7%増加、健診3%減少）。機器に関しては、移動型X線装置の維持と対応については、故障もなく対応できたと思う。

その他の目標については、(CT検査の個人被ばく管理、放射線の安全管理、電離放射線健康診断の届け出、個人被ばく管理)目標をほぼ達成できたと思うが、自己研鑽の院外の講習会、勉強会については参加することができなかった。

昨年同様に、発熱時の患者さん撮影後は環境衛生や換気を行った。

3 今後の課題

1. 新型コロナウイルスの影響も軽減され、新型コロナウイルス以前の件数までようやく回復、増加してきた。昨年と比較して健診以外の検査については、大幅に件数が増回した。今年度も昨年度以上に撮影件数、検査件数を増やしていきたいと考えている。
2. 機器に関しては、病室撮影用の移動型X線装置については、病室撮影が増加したこともあり、バッテリーの減り具合が早くなってきている。機器購

入から20年以上たち永年劣化もみられるため更新の時期にきている。

その他の機器としては、CT装置、FCR装置(画像読み取り装置)FCR装置接続のコンソール(画像構築装置)も機器購入から10年が経過する。CT装置に関しては来年度から、X線管球の保証が付いた保守契約が結べなくなる。今すぐにX線管球が壊れることは考えにくいですが、撮影時や装置立ち上げ時のエラー頻度などに気を付けて対応していきたいと考えている。

FCR装置はカッセテが破損しているものがある。コンソールに関しては、機器購入から10年がたつとPC部品の関係で故障対応や修理が厳しい状況になる。そのため、コンソールについては更新の時期にきている。機器に関しては、更新時期が大きな課題になる。

(文責：主任 廣田 任成)



臨床検査室

1 概要

所属長名：岡林 妙子

構成職員：臨床検査技師 3名

合計人数 3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

9月に前任室長が定年退職し、経験年数も知識も浅いメンバーばかりとなりましたが周りのスタッフに助けられながら業務に取り組んできた。

1. 業務の効率化

前任室長の退職に合わせ、IDNOW(コロナNEAR法)を発熱外来から検査室へ移動した。

以前は発熱外来で測定をしていたため、検査技師1名が発熱外来に行くと残り2名もしくは1名で生理検査と検体検査を実施しないといけなかった。検査室に移動することで検体検査、生理検査の人手不足が解消された。

また、昼休憩の時間を時間差で取得することで休憩中に提出された、外来や病棟の検体の対応が可能となった。またその結果休憩時間を確実に取得でき、検査の対応も可能となった。

2. 自己研鑽

心臓超音波検査をできる者が一人しかいないため、全員が実施できるよう勉強を始めたが退職者もあり仕事の引き継ぎなどで部署内での研修が進まなかった。しかし件数はスタートした令和4年12件であったが、令和5年33件と倍に増えた。

3. 検査実績件数

全ての分野において、ほぼ前年を上回る結果と



なった。免疫・血清に関しては、インフルエンザの流行で令和4年405件に対し令和5年は2,465件と6倍増加となった。

3 今後の課題

1. 業務の効率化

ヒヤリハット件数が多かったため、KYT(危険予知トレーニング)を導入し、検査室の環境から検査まで幅広く着目し、問題点・対策を考え事故を未然に防ぐ。またより正確で、迅速な検査を診療部へ提供できるよう努める。

2. 自己研鑽

心臓超音波検査の増加もあり、スタッフの研修ができるよう業務のやりくりをする。また個々で外部勉強会への参加、スキルアップを目指す。

(文責：主任 岡林 妙子)



栄養管理室

1 概要

所属長名：石山 由香

構成職員：管理栄養士 4名

(内パート1名)

合計人数 4名

給食業務委託：富士産業株式会社 15名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

- ・栄養関係功労者高知県知事表彰
- ・入院患者および入所者に対する食事提供
- ・栄養マネジメント強化加算の実施
- ・栄養アセスメント加算の実施
- ・口腔・栄養スクリーニング加算の実施
- ・外来患者の栄養指導の実施
- ・入院患者の栄養指導の実施
- ・入院患者の栄養管理
- ・病棟カンファレンスの参加
- ・担当者会議の参加
- ・判定会の参加
- ・各種委員会の参加
- ・院内広報誌せんたん「レシピ紹介」

②デイクアファイト、デイスービスいろは、グループホームいろは丸を利用している方を対象に定期的に栄養スクリーニングを行い、各関連事業所に利用者さまの栄養状態について情報提供や外来受診を勧めるなどの対応を行うことができた。

③カンファレンスの参加や食事巡回を行い患者さまの摂食状態や嚥下状態の問題点を多職種で検討し食事内容や形態、環境などの調整を行い、患者さまの栄養状態改善に努めた。これらのことなどが認められ、今回、令和5年度栄養関係功労者高知県知事表彰を受けることができた。

④主にWEBセミナーを活用し新たな知識・アイディアなどを得ることができた。今後も、積極的に研修会に参加し幅広い知識を得て患者さまの治療に貢献し、信頼と満足を得られるように努める。

2. 目標に対する達成状況

[目標]

- ①集団感染（クラスター）対策を徹底した給食管理を行う。
- ②付属施設の栄養管理を行う。
- ③患者さまの病状に合わせた食事の提供に努める。
- ④研修会など積極的に参加し、自己研鑽に励み日々の業務に活かす。

[達成度]

- ①調理従事者の衛生管理点検表を用いスタッフの体調管理を行い、体調不良者に対して業務に従事させないなどの適正な対応を行った。また、HACCPの考えを取り入れた衛生管理を実施し安心安全な食事提供を行うことができた。

3 今後の課題

多職種と検討し患者さまの病状にあった食事を給食業務委託会社と協力しながら患者さまに喜んでいただける食事を末永く提供ができるように努める。また、入院患者さまの多くが高齢者であり、身体の器官や機能が衰えているため患者さま一人ひとりの身体機能に応じた食事提供が行えるよう、今後も学会や講習会などに参加し自己研鑽に努める。

(文責：主任 石山 由香)



リハビリテーション課

1 概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 8名

作業療法士 4名

言語聴覚士 3名

合計人数 15名

2 活動内容・目標に対する達成状況

コロナが5類に移行し病棟編成がなされる中、感染の再燃と患者数増加への対応に苦慮したが、今後の礎となる重要な1年であった。

1. 地域の介護予防への貢献

継続事業としているマルナカ高知「紡」に加え、その口コミから2カ所より依頼があり、計3カ

所での健康教室を実施した。地域によって健康意識や生活習慣の共通点や違いがあり、業務上の良いフィードバックとなり、学会での発表にもつながった。

2. アフターコロナにおける適切なリハビリの提供

コロナ病床から一般に移行していく過程で、急激な対象患者増加に対し、安全性確保や算定数増加に取り組んだ。効率化への取り組みとして担当セラピストの見直しや書類・環境整備などに費やす時間を詳細に配分し直し遵守を徹底した。また業務内容をチェックボックス方式の一覧表で可視化し遺漏防止とした。

包括病床の患者増に対し、一層の方向性を重要視した対応を方針とし、本人・家族からの聞き取りを重要視することで早期より在宅・施設復帰に努めた。

3. 採算性への努力

人員数前年度比96.7%、実働日数前年度比98%、延対象者数119.2%において、前年度比99.1%の算定額（74,928,050円＋包括実績6,796,400円）であった。コロナ感染による実施困難の影響から、目標値を若干下回る結果であった。訪問リハビリは算定目標値の460万円を達成し、4,998,320円であった。



3 今後の課題

1. 医療・介護のダブル改正の年となり、地域の介護予防はより重要視されると考える。継続してきた事業に加え、これまで休止していた地域活動に参加・貢献していく。
2. 満床化を目指した患者数に対し、効果的かつ効率的なリハビリの提供を常に模索し対策を講じる。またいつでも起こり得るパンデミックへの予防・対応を常に心掛ける。
3. 年度末の職員退職や患者増の中、スタッフの意見を尊重した業務改善を図り、コミュニケーションの取れた働き甲斐のある職場づくりを目指す。

（文責：リハビリテーション課 課長 門脇 貴代）

□ リハビリテーション課 理学療法室

1 概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 8名

合計人数 8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域の介護予防に貢献できるリハビリテーションの提供

民間介護予防事業「紡」での健康教室への参加は5年目となり、昨年度と同様、月2回、計24回開催した。コロナが5類感染症となったことで、参加者も順調に増え、参加者数は昨年度の延べ245名に対し、本年度は延べ304名となり、約24%増となった。今まで以上に利用者の認知度の高まりと期待度が感じられる。また今年度は香美市香北町の介護予防事業「健康教室」へも2カ月に1回、計6回講師として参加し、想定を上回る人数の参加があり新たな経験や刺激となったと思う。



2. アフターコロナにおける適切なリハビリテーションの提供

コロナ病床廃止に伴い、徐々にリハビリ対象者の患者が増加し、各スタッフの担当患者も増えたが必要書類の作成や算定において抜けや取りこぼしのないよう、to doリストの作成を行い可視化した。また包括病床はリハビリ目的に入院される方

の増加に伴い、自宅訪問の機会や患者家族に現在の身体機能の状態を実際に見てもらう機会が増え、在宅生活のイメージをしてもらうことができたことでスムーズな退院につなげることができた。

3. 採算性への努力

リハ助手がいないことによる業務の煩雑化、各スタッフの負担感の訴えから課長、主任以外のスタッフによるスタッフ会を開催し、8月から2月までは毎月行い、業務内容の見直しや分担の検討、働きやすい環境づくりを目指した。それによりリハ業務への影響は最小限となり、また各々が自部署の業務改善に積極的に関わる機会となった。スタッフ会は現在、毎月開催から議題が上がった際に行う、不定期開催となっている。

3 今後の課題

1. 地域の介護予防に貢献できるリハビリテーションの提供
民間介護予防事業「紡」での健康教室も6年目となり、講義内容のマンネリ化も考慮し、利用者に

講義内容希望のアンケートを取り、希望する内容の検討も行っていく。

2. 平均135床入院患者への適切なリハビリテーションの提供

入院日よりスムーズな介入が行えるよう、入院前～当日の手順を各自および主任も把握し効率化を徹底する。また退院支援カンファレンスに確実に参加することで、早期より各自が患者の方向性を踏まえた訓練や対応ができるようにする。

3. 採算性への努力

課長から前月の報告を受けることで、各自が単位数の把握および振り返りを行い、確実な単位数の獲得に努める。業務改善についても引き続き部署全員が参加し検討する場を設けて、各々が自主的に考えることができるようフォローしていく。

4. 適切で確実な感染対策の継続

リハビリテーション室は入院患者だけでなく外来患者も出入りするため、ゾーニングを継続して行い、感染対策に努める。

(文責:理学療法室 主任 濱田 くるみ)

□ リハビリテーション課 作業療法室

1 概要

所属長名: 門脇 貴代

構成職員: 作業療法士 4名

合計人数 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域の介護予防事業への貢献
一宮マルナカ高知「紡」と香北町介護予防事業【健康教室】において、「お酒と上手につきあう方法」「いきいきシェイプアップ」「年を重ねても美しい姿勢でいたい」「血圧を下げる運動と食事」「自律神経を整えよう」「夏バテに注意」というテーマでOTが講師を担当した。昨年度に比べ参加者数も格段に増え、心身機能レベルも高い方が多くなっており、よりニーズに則した内容となるよう各々が工夫しながら実施した。
2. アフターコロナにおける適切なリハビリの提供
コロナ病床から一般病床への移行に伴い、入院患者が急速に増加する中、OTは休職などによる人員不足が続いた。厳しい環境の中、より効率的に介入できるよう、OT間で話し合いながら、受け持ち患者の配分の適宜見直しや、介入方法の検討を行った。また、包括病床の患者に対しては、自宅や居住系施設への退院がスムーズに進められるよう、ご家族や関連機関からの情報収集を早期から積極的に行い、リハビリに反映させた。
3. 採算性への努力
コロナ病床廃止後は入院患者数の増加に伴い、リ



ハビリ対象患者も順調に増え、前年度比119.2%となった。直接的な患者業務に加え、書類業務や雑務などで各自の負担感は増大した。業務の煩雑さを軽減させるため、課長・主任会やスタッフ会で業務内容の見直しや役割分担の検討を繰り返し行い、業務内容の改善に努めた。

3 今後の課題

コロナの5類移行後、地域の介護予防教室への参加者も増え、よりニーズが高まっているように感じられる。今後も介護予防事業や地域活動、研修会に参加し、病院、リハビリ課として貢献していく。

コロナ病床廃止後、入院患者数は順調に増え満床に近い形となっている。患者層も重症の方が多く、ADLの獲得を目標としたアプローチが難しい場合も多いが、視点や切り口を変えながら、OTとしてより効果的に介入できるよう模索を続けていく。

来年度は職員の退職や入職も予定されており、大きく環境が変わることが予想される。新入職員の教育にリハビリ課全体で取り組み成長を促すとともに、各々

がよりやりがいを持って働けるよう尽力していく。

(文責:作業療法室主任 竹倉 佐和子)

□ リハビリテーション課 言語聴覚療法室

1 概要

所属長名: 門脇 貴代

構成職員: 言語聴覚士 4名

合計人数 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 地域の介護予防に貢献できるリハビリテーションの提供
 - 民間介護予防事業「紡」において継続的に講習会を開催することにより、地域の高齢者の健康意識の向上や知識の向上に貢献できた。また、STの認識度向上にも貢献できた。
- アフターコロナにおける適切なリハビリテーションの提供
 - コロナ病床が廃止となったことにより、リハビリ対象患者数が増加した。重症の患者が多く、積極的な介入が困難なことも多かったが、患者の状態に応じた訓練頻度および単位数の設定を行い、適切な介入を心掛けた。その結果、算定数増加と状態安定につながった。
 - 包括病床での言語聴覚療法のオーダーは少なかったが、摂食機能療法でのオーダーに対しては積極的に介入した。
 - 全病棟において、摂食機能療法に対する依頼・相談が多かった。内容として経口摂取可否の判断についての依頼も多くあったが、認知症による食思低下や食事拒否の場合、実質的な評価や訓練にはつながらない場合が多く、評価実施の流れに検討の必要性が感じられた。
 - NSTカンファレンス、ラウンドに参加し多職種と積極的に意見交換を行った。その結果経口摂取が可能になり栄養状態が改善するケースが増えた。
- 採算性への努力
 - 1日の目標単位数を16単位と設定し、達成できるように努めた。当院では経管栄養を実施している重症患者が多く訓練実施時間が限られるという問題点があったが、担当者間でのコミュニケーションを密に取りながらスケジュールを組むことによって、時間のロスを最小限に抑え、効率的な介入が可能となった。
- その他
 - 10月に大阪で開催された慢性期医療学会にて、経



管栄養から経口摂取に移行したケースについて発表を行った。

3 今後の課題

民間介護予防事業「紡」を中心に、一宮地区の事業などにも講師として参加を続けてきた。当初と比べると、地域の高齢者の健康意識の高まりやニーズの高さを感じている。しかし、口腔機能に対する意識は、身体機能などに比べてまだまだ低い状態である。コロナ禍における外出自粛などで人との対話の機会が減ったことから、高齢者の口腔機能はより低下しているとも言われている。今後も口腔機能の重要性について啓蒙活動を継続していき、介護予防に貢献していきたいと考える。

コロナ病床廃止後入院患者は徐々に増えており、ST3名で協力して評価、訓練を実施している。特に摂食機能療法の依頼が多く、昼食時の嚥下機能評価の対応に苦慮している。また、STが介入していない患者に対する嚥下機能評価の依頼も増えており、今後評価体制の検討が必要となっている。必要な患者に適切な時期、適切な場面での評価が行えるよう、他部署と連携しながら業務を行っていききたい。

今後は、NSTへの参加や嚥下評価依頼など、業務を行う上で必要な対応は行いつつ、目標単位数の達成を念頭に置いた効率的な介入が課題となってくる。ST一人ひとりが適切な評価、訓練が実施できるよう自己研鑽に励みながら効率的な介入を心掛け、目標単位数が達成できるように努めていきたい。

(文責:言語聴覚療法室 主任 谷口 桃子)

□ リハビリテーション課 訪問リハビリテーション三愛

1 概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 3名

合計人数 3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. コロナ禍における感染対策と事業の継続
BCP（事業継続計画）を作成。それに基づき、適切で確実な感染対策を徹底した上で業務を継続できた。結果、利用者の健康管理と在宅生活を維持しつつ、採算性につなげることができた。
2. 広報活動の実施
地域介護予防の一環として、運動教室や民間の介護予防事業「マルナカ紡」へ積極的に参加し、当事業所の広報活動を行うとともに地域住民の健康寿命の増進に貢献することができた。
利用者増加に向けた取り組みとして、各事業所に対し当事業所のチラシ配布を行うなど広報活動を継続している。

3 今後の課題

1. 介護報酬の改定の年となり、質の高いサービス提供が重要視される。
また今回の介護報酬の改定では、介護予防が一層



重要になっていると考える。そのため、継続してきた事業に加え、これまでコロナ対策により休止されていた地域活動に積極的に参加・貢献するとともに、事業所の広報活動を継続し利用者増加を目指す。

2. 居宅事業所からの紹介や母体病院からの契約は少なく利用者獲得の困難性は継続している。また、現利用者の入院や通所系サービスへの移行により全体数は減少傾向にある。
院内や同グループ内施設との連携はもとより、再開し始めた居宅系の会議などへの参加を行い情報収集や広報活動に努めていく。

（文責：管理者代行 高橋 良昌）



地域医療連携室

1 概要

所属長名：戸田 里子（師長）

澤田 恵里（主任）

構成職員：看護師 2名

社会福祉士 3名

合計人数 5名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 1) 安定したベッドコントロール

本年度の入院相談件数は250件。前年度の269件を下回ったが、受け入れ率は66%で前年度56%に対して10%上昇した。

機関別入院相談件数は、高知赤十字病院45件、細木病院32件、いずみの病院26件、近森病院18件、高知大学医学部附属病院16件である。（以下グラフ①参照）本年度は細木病院との連携強化を図り、受け入れ率87%と最多であった。

外来病診連携件数は437件。前年度228件に対して209件上昇している。他院への紹介が276件で、前年度と同様に高知大学医学部附属病院への紹介が最も多かった。総合病院だけではなくさまざま



なクリニック、県外の病院からの紹介など連携の幅が広がっている。（グラフ②参照）

病院全体の退院件数は204件で、自宅への退院が80件、施設入所が48件、転院が22件、死亡退院が59件であった。

- 2) 地域包括ケア病床の適正な運用

地域包括ケア病床の運用実績は、在宅復帰率平均90%（前年度87.4%）、自宅などからの入院患者割合平均80.8%（前年度63.7%）、緊急入院患者数平均15人（前年度10.9人）、重症度、医療・看

護必要度A項目（以下、A項目という）割合平均31.4%（前年度32%）と基準クリアできている。

3 今後の課題

1) コロナ病床からの転換とベッド稼働の維持

前年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受け、稼働率の伸び悩みが課題であったが、本年度は10月以降コロナ病床からの転換に伴い、11月に病棟再編とスタッフの配置換えが成された。今までコロナ病床運用のため空床となっていたベッドを5カ月で+25床と上昇させ、病棟をはじめ関係部署とともにベッド稼働率向上に尽力した。結果、令和6年度の患者数の安定につながっている。

入院調整に関しては、医師別の受け持ち患者数の把握を行い、医師の患者持ち数に偏りなく最短日で入院調整を行うことができた。

さらに、稼働率維持のため、障害者病棟で介護医療院の待機患者を一定数入院してもらうよう調

整しているが、障害率の兼ね合いもあり、他の医療機関や施設での待機患者獲得も必要と感じている。

また、令和6年度から地域包括ケア病床から強化型の老健へ退院すると復帰率0.5のカウントが可能となった。併設の老健あうん高知との協働も不可欠となっており、引き続き介護保険施設との連携も強化していきたい。

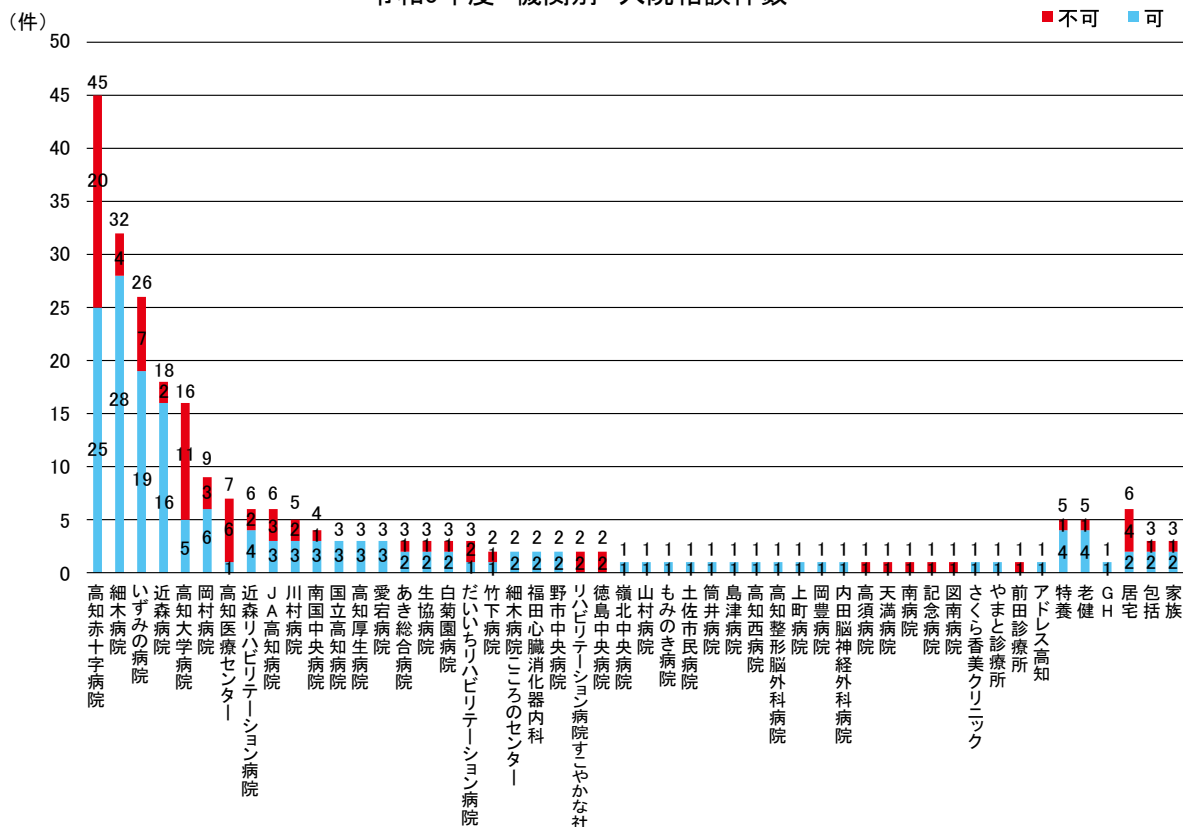
2) 地域包括ケア病床の実績維持

地域包括ケア病床ではA項目該当患者の割合が一定数必要であり、対象患者がいけない日が続くこともあったが、割合としては高い水準でクリアできている。

また、主に創処置や褥瘡処置が対象者になっていたが、令和6年度診療報酬改定に伴い、褥瘡処置が評価対象から除外となった。このため、A項目の基準クリアに難渋することも予測されるため、各医療機関や介護施設などと情報共有しながら対象患者の入院安定を図っていきたい。

グラフ①

令和5年度 機関別 入院相談件数



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

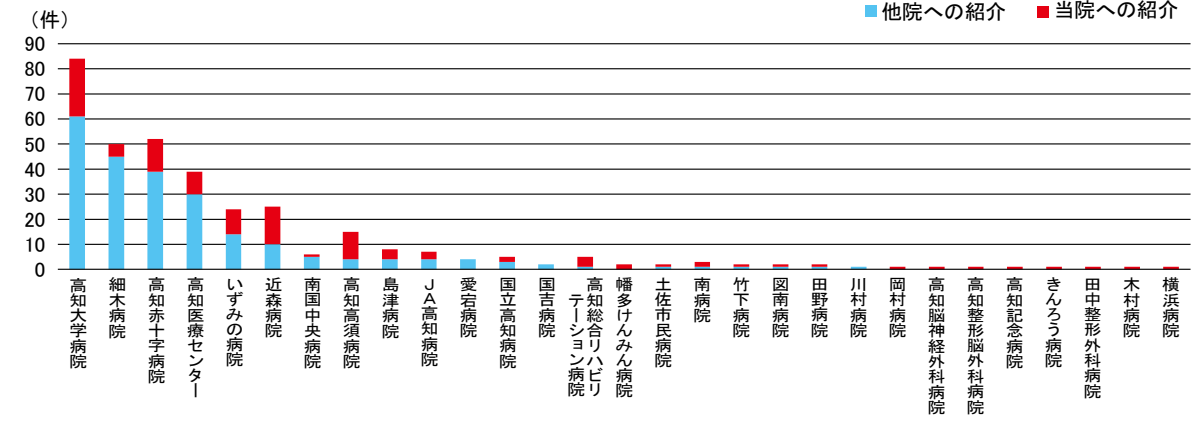
本部

アドレス・高知

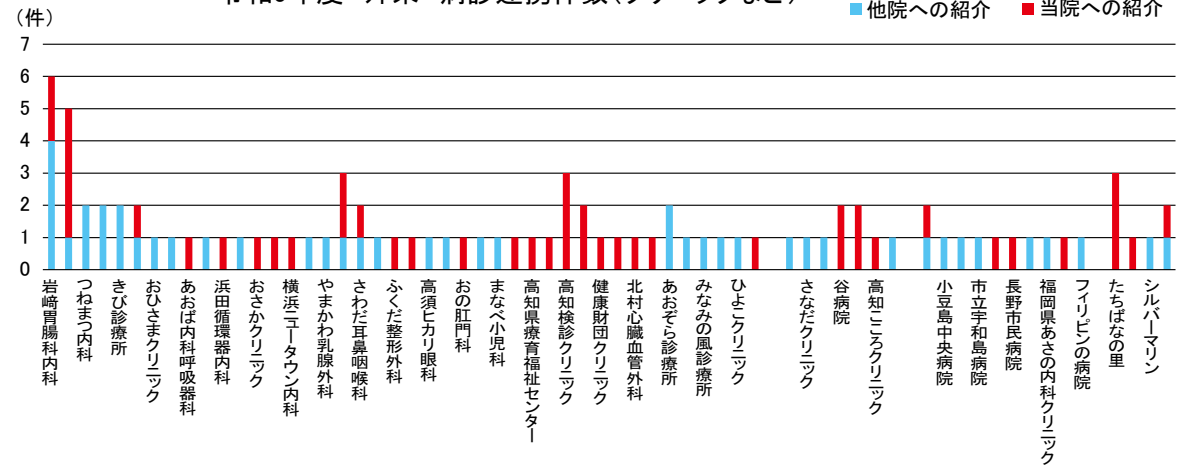
福寿園

積善会

グラフ② 令和5年度 外来 病診連携件数(総合病院)



令和5年度 外来 病診連携件数(クリニックなど)



(文責：師長 戸田 里子・主任 澤田 恵里)

事務部



事務部長
植田 宏平

1 概要

所属長名：部長 植田 宏平
構成職員：事務部長 1名
合計人数 1名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

事務部は、総務課、医事課の2部門で構成されており、三愛病院グループを円滑に運営するために各部署の連携を支えながら、三愛病院グループ運営のための企画、提案、業務の効率化、コスト管理などの予算管理、情報管理とそのセキュリティ管理および行政への届け出や申請および調査などの対応など多岐にわたる業務を行っています。さらにコロナウイルス感染症対策、大規模災害などの有事には情報収集や行政との調整窓口など病院運営に必要なあらゆる庶務を行います。

2. 目標に対する達成状況

『令和5年度三愛病院事務部の目標』

- ・三愛病院グループ運営への参画意識を強く持ち、実行できる、達成できる事務部門を目指す。
 - また新型コロナウイルス感染症の感染フェーズ対応を柔軟かつ的確に行うとともにポストコロナへの潤滑な移行を目指す。
1. 事務職員各自が責任感をもって、それぞれの担当業務を迅速かつ正確に行うとともに、担当業務外の業務にも積極的に参画し知識のさらなる向上を目指す。
 2. 事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、法人内他施設との協同も積極的に行い、知識、熟練の向上のため研鑽に励む。

3. 事務部所属管理職の職務、労務管理能力の向上に努め、事務部門のガバナンス力の強化を図る。
4. 事務部の次世代リーダーの育成と、事務職員全体のボトムアップを目指す。
5. 事務部の貢献度、評価を高めるために、高いコミュニケーション力を育て、さまざまな部署と連携強力を深め実行できる、達成できる事務部門を目指す。
6. 三愛病院における新型コロナウイルス感染症対策に積極的に協働するとともに、ポストコロナに柔軟に対応し、平常診療への潤滑な移行ができるよう準備を行う。
7. デジタル化とオンライン環境の拡充を行うとともに、安全な運営のためのセキュリティ対策にも注力する。

『令和5年度達成状況』

1. 新型コロナウイルス感染症の感染対策に柔軟で迅速な対応を行った。また感染フェーズの変更に対応し病棟再編成関連の届け出、補助金事務および高知県と次年度予開始の医療措置協定を行った。
2. 医事課に関しては、ガバナンス強化が進まず大きな課題を残す結果となった。
3. 総務課は人材育成も進み、実行できる、達成できる強い事務部門が形成されている。

3 今後の課題

1. 医事課各職員の業務内容の習熟と正確性の向上、および管理職のガバナンス力の向上と次世代の育成。
2. 医療DXに対応したデジタル化において、徹底した情報セキュリティ対策を行い、データの漏洩や不正アクセスなどのリスクの最小化と職員教育を徹底する。
3. アフターコロナ体制への潤滑な移行と、安全で安心な診療体制の確立に協力する。
4. 医師の働き方改革に対応した管理体制の整備。

(文責：事務部長 植田 宏平)



総務課

1 概要

所属長名：課長 猪森 清明
構成職員：主任 2名
事務員 3名
施設係 3名

合計人数 9名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院の目標と取り組みの達成に向けて積極的に関わる

- 1) 新型コロナ対応への積極的な参加
- 2) 報酬改定などに伴う業務の対応
2. 質の向上に取り組む
 - 1) エビデンスに基づいた業務を行う。
 - 2) 問題意識をもって業務にあたり、各人考える力を身に付ける。
 - 3) 有給休暇管理簿リニューアル



令和5年度は、新型コロナウイルス関連業務で大きな変化があり、5類への移行から通常の医療提供体制への段階的な見直しが行われた。

これに伴い、病床確保料などの補助金申請業務については、より煩雑になり負担増となったが、一定やり遂げることができた。

その他にも、高知市立ち入り検査、税務調査などの準備や対応、あうん高知に眠リスクャン、インカムの導入、有給休暇管理簿の見直しなど課題の改善にも取り組むことができた。

また、給与業務については、給与担当者の習熟度が上がり、システム改善など行い年間を通して精度の高い状態で業務を行えている。

社会保険関連、各種届け出などは、エビデンスに基づいた処理を行うことに重点を置き、制度を良く理解しながら、問題意識を持って取り組むことができた。

また、処遇改善に伴う事務では、制度の変更などもあり、算定要件の理解や配布ルールに基づいた支給、計画書の作成、実績報告など相当な業務負担となったが、十分に検討を重ねながら取り組むことができた。

3 今後の課題

当院の総務課は総務、人事、労務、経理、用度、情報システム（IT）、施設管理と多岐にわたっており、さまざまな知識とスキルが求められる。そのため個人のスキルアップも重要なポイントとなっている。

業務に関しては、役割分担をより明確にし、スケジュール管理や進捗状況の共有など、総務課内の連携を図った。

また、人材育成として、実務に対して問題意識をもって取り組むこと、各人が考える力を身につけること、エビデンスに基づいた処理を行うことに重点を置き、規程や法制度を良く理解するように読み解きや調べることを重要視した。

これによる課員の制度・規程の理解度や問題点の見つけ方、解決への方向性の見いだし方などの効果は表れてきた。

また、日頃から会話でコミュニケーションを取り、情報共有の重要性についても理解を求めた。

これらのことは今後も徹底して行い、事務部門強化に努めていきたい。

（文責：総務課長 猪森 清明）



医事課

1 概要

所属長名：
主任 山本 淑恵・
小田 雅代

構成職員：
主任 2名
入院事務係 2名
外来事務係 6名
介護事務係 4名
健診事務 1名
（嘱託・派遣含む）
合計人数 15名



2 活動内容・目標に対する達成状況

業務の効率化

必要な作業や手順の見直しおよび、マニュアルの

再確認と新規作成に着手することができた。

レセプト作業時の効率化、算定漏れの削減を実施し、返戻査定率の安定化も図ることができた。

健診室の受付窓口を病院窓口から健診室に変更したことで、スムーズな誘導、提出書類の確認時間の削減や、待ち時間の快適性の向上につながった。

新型コロナに関連する保険請求業務

特例措置などについては、常に最新の情報収集を行い、速やかに変更などの対応ができた。

特例加算についても算定漏れや大きな査定もなく請求することができ、未収金の発生もなかった。

3 今後の課題

【具体的な取り組み】

1. 患者満足度および接客力の向上

病院の窓口として、身だしなみ・言葉遣い・挨拶・行動・環境整備の5つを基本に、患者さんからも職員からも信頼される、接客能力・対応力の向上を目指す。

2. 業務の効率化と各担当チームの結束力アップ
医療介護の各担当者が担う業務についての理解や尊重する気持ちおよび連携を促進させていくことで、個々と部署両方のレベルアップを目指す。

3. 人材育成

請求事務能力、コミュニケーション力のレベルアップおよびリーダーの育成

診療情報管理士・施設基準管理士など、多様化する業務に対応できる次世代職員の育成を推進

【まとめ】

これまで培ってきた基本姿勢を大切にしながら、新たな体制での、意識改革や業務体制の効率化を促進させていく。また、事務部門だけでなく、他部門とのコミュニケーションや連携協力体制の充実化を図り、しっかりとした信頼関係を築いていきたい。

(文責：主任 山本 淑恵)



診療情報管理室

1 概要

所属長名：主任 山本 淑恵

(診療情報管理士・施設基準管理士)

構成職員：1名(医事課 兼務)



2 活動内容・目標に対する達成状況

診療情報管理の充実化

必要な業務の明確化および手順の再確認を開始した。これまでのデータ処理方法、管理体制の見直しに着手した。現状、紙カルテなど保管場所の確保が必要な記録が膨大にあることもあり、さらに検討や対策が必要である。

- ②全国がん登録・疾病分類コーディングの精度向上
- ③適時調査や病院定例報告などに備え、施設基準の再確認や柔軟に対応できる体制を強化
- ④診療情報管理についての認知と、重要性を理解してもらえるよう研鑽に努める
- ⑤人材育成

新規施設基準の提案

診療報酬改定の情報収集、該当部署への情報発信を積極的に行った。併せて、診療情報管理室が主導となって院内で算定予定の各点数について各所属長との説明会を実施した。

新規施設基準の開拓と提案に努め、新規申請についても予定通り提出できた。

医事課と併せて、診療情報管理士・施設基準管理士など、多様化する業務に対応できる次世代の人材育成を推進していく。令和6年度の医療・介護診療報酬改定への対応および、最新の情報収集を継続し、他部門との連携を強化することで新規施設基準の開拓と提案に努め、精度向上と収益アップを目指すとともに、今後も診療情報管理室の充実化を促進させていくことに注力していく。

3 今後の課題

今後の取り組み

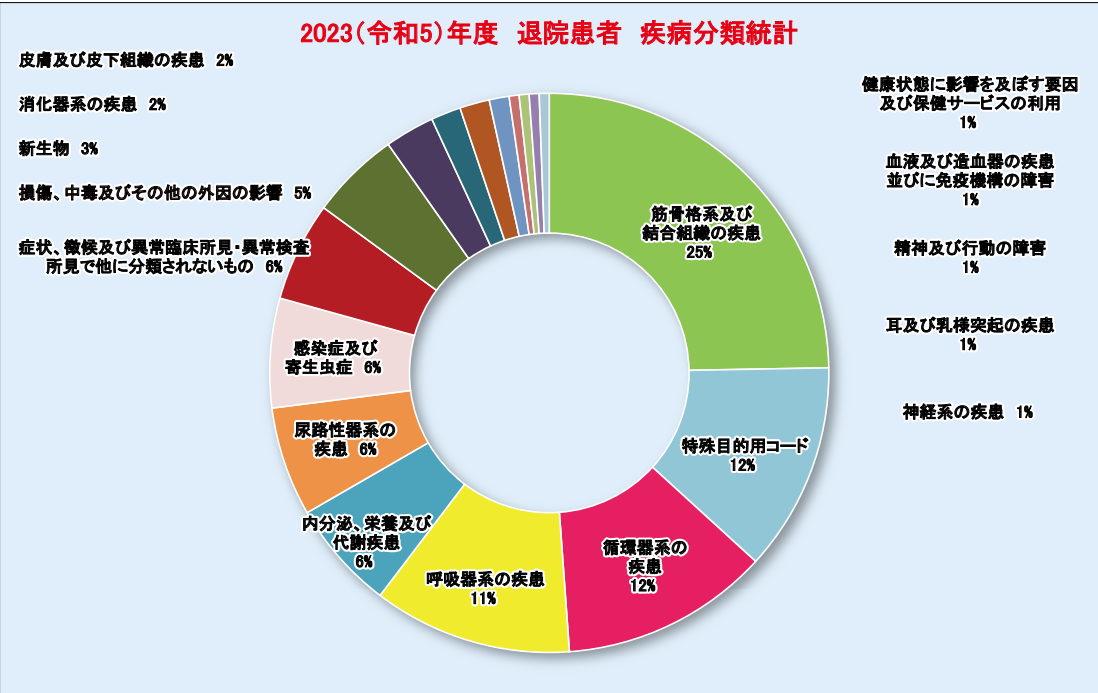
- ①必要なデータの効率的な蓄積と分析

■ 2023（令和5）年度 退院患者統計

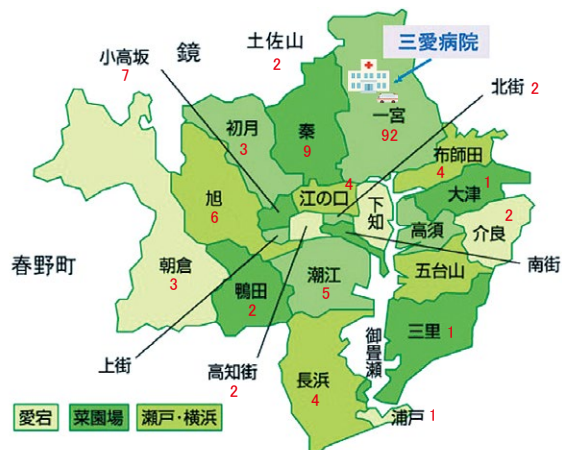
疾病分類	件数
筋骨格系及び結合組織の疾患	43
特殊目的用コード	21
循環器系の疾患	21
呼吸器系の疾患	20
内分泌、栄養及び代謝疾患	11
尿路性器系の疾患	11
感染症及び寄生虫症	11
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10
損傷、中毒及びその他の外因の影響	9
新生物	5
皮膚及び皮下組織の疾患	3
消化器系の疾患	3
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2
神経系の疾患	1
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1
精神及び行動の障害	1
耳及び乳様突起の疾患	1
合 計	174

高知市	退院患者
一宮	92
秦	9
小高坂	7
旭街	6
布師田	4
長浜	4
江ノ口	4
朝倉	3
初月	3
介良	2
北街	2
鴨田	2
高知街	2
土佐山	2
大津	1
三里	1
浦戸	1
合 計	145

高知市町村別	退院患者数
高知市	145
南国市	15
いの町	3
室戸市	2
佐川町	2
安芸市	2
香美市	1
日高村	1
中土佐町	1
須崎市	1
土佐市	1
合 計	174



2023(令和5)年度 三愛病院 高知市内退院患者 診療圏(大街区分別)



高知市	令和5年度
一宮	92
秦	9
小高坂	7
旭街	6
布師田	4
長浜	4
江ノ口	4
朝倉	3
初月	3
介良	2
北街	2
鴨田	2
高知街	2
土佐山	2
大津	1
三里	1
浦戸	1
合 計	145

細木病院

三愛病院
あうん高知

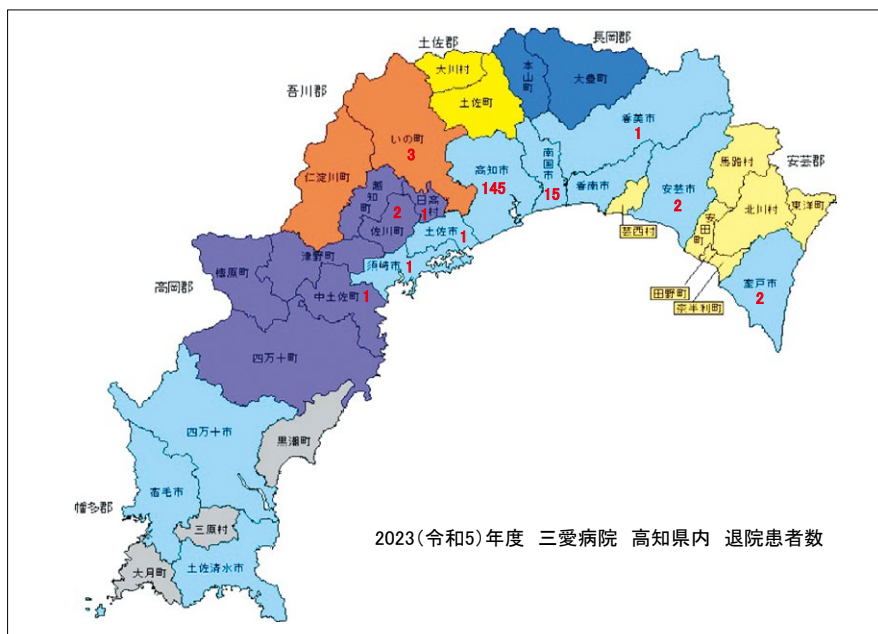
日高クリニック

本
部

アドレ
ス・高知

福寿園

積善会



高知県市町村別	退院患者数
高知市	145
南国市	15
いの町	3
室戸市	2
佐川町	2
安芸市	2
香美市	1
日高村	1
中土佐町	1
須崎市	1
土佐市	1
合 計	174

(文責：主任 山本 淑恵)

在宅部門



居宅介護支援事業所「一宮」

1 概要

所属長名：和田 真樹

構成職員：主任介護支援専門員 1名
介護支援専門員 3名
合計人数 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- ・地域に根差した居宅介護支援事業所としてBCPを運用し、インフォーマルを活用した支援を行う

高知市と高知市居宅介護支援事業所協議会との業務委託契約に基づき、担当する避難行動要支援者延べ49件の個別避難計画を作成することができた。

- ・事業所加算Ⅱを維持し、基礎資格を生かした委員会活動によって事業所内外との交流を図る

各自の基礎資格（介護福祉士、看護師、社会福祉士など）を生かし、院内の委員会活動だけでなく、高知市居宅介護支援事業所協議会北部ブロックでの活動や、地域ケア会議への参加ができた。またその経験を定例会の議題にするなど、事業所へのフィードバックもできた。

- ・職員の負担感を減少できるよう、事務処理能力の向上を図り残業時間の短縮につなげる

高知市キャリアラダーモデルに沿った研修計画の立案、実施、評価により、効果的で効率的な研修参加ができるよう取り組んだ。

週1回以上の定例会や月1回以上の事例検討会



を通し、アセスメント力の向上を図ることでケアマネジメントの質の向上と、それによる残業時間短縮を目指した。

3 今後の課題

1. 避難行動要支援者の個別避難計画を利用者、家族とともに作成できたことは減災意識を高める結果にもつながった。今後も災害や新興感染症に備えたBCPの運用ができるよう、取り組みをすすめたい。
2. 令和6年度より職員3名体制となるが、質の高いケアマネジメントが実践できるよう計画的に人材育成を行う。それにより利用者が地域で暮らし続けられることを支援できる居宅介護支援事業所を目指したい。

（文責：主任 和田 真樹）



デイサービスいろは

1 概要

所属長名：宮内 清

構成職員：
看護師・機能訓練指導員兼務 2名
介護福祉士・生活相談員兼務 3名
介護福祉士 1名
看護助手 5名
合計人数 11名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 利用者間での接触や交流、役割を持てるように活動、季節行事などを実施し、利用者が自立して在宅生活を継続できる活動を支援する。



自宅での転倒や体調を崩され入院されるケースがあり、短期的に休止される利用者が複数いた。

前年から引き続き、感染予防のため、消毒や換気やマスクの着用の徹底と黙食などを実施し、利用者の目にも見える形で行うことで安心して利用していただくことができた。

利用者の生活状況に配慮した対応を行うことで新規利用相談からスムーズに受け入れができたが、前述の理由による減少があったため、利用者数の増加が思うように進まなかった。

2. 各職種それぞれのマニュアルの整備と合わせ、事業所内で技術、業務の基礎の振り返りを行い、技術の再習得とマニュアルの周知を行う。
各種マニュアルの見直しを行うとともに職員が業務に追われる姿を利用者に見せないように業務の優先順位と取捨選択を心掛けて実施した。
3. デイサービスいろはの特色である、要支援者・要介助者が手芸などの作品に取り組み、達成感を得られるサービスを提供する。
手芸などを通じて対人交流の活性化やオールドパー文化展へ共同作品を出品するとの目標を達成したことなどで利用者から意欲的な発言を聞くこ

とができた。

さまざまなニーズに対して柔軟な対応をすることができており周知しつつある。

3 今後の課題

1. 創作活動などを通じて利用者間の交流を積極的に進めていき、新たな交友関係を築くことができるよう支援をしていく。
2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる。
新型コロナ対策の区切りを受け、地域のイベントなどへも作品出展などを通して参加していくことで地域内の各種団体にDSいろはの存在を周知していく。
3. 新入職員が定着できる環境づくり。
中途採用者などに対する指導職員の固定を行い、それぞれの業務に対する統一した指導をする。

(文責：管理者 宮内 清)



グループホームいろは丸

1 概要

所属長名：管理者・主任 野町 喜代
構成職員：

管理者（介護福祉士）	1名
介護支援専門員（介護福祉士）	1名
計画作成者（介護福祉士）	1名
介護福祉士	13名
看護助手	5名
合計人数	18名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. グループホームの特性を活かした生活環境を提供する
入居者の活動に合わせて制作物・箸入れ・編み物・掃除・洗濯物干し／たたみ・台拭きなどの提供と施設まわりの散歩・屋内での歩行・階段昇降・立ち上がり訓練の実施を行った。また現地で車から降りないドライブ方式であじさい・コスモスを見に行くことができた。家族との面会はビニールカーテン越しではあるができるだけ会っていただけるよう家族へ声掛けを行った。
2. コミュニティの一員として地域のつながりを大切にする
一宮小学校とは運動会・音楽会を通じ学生との交流を持てた。また近隣の方から畑の野菜をいただき、いろは丸で育てている野菜や花についてのアドバイスをもらっている。今回は入居者と建物外への避難行動や災害時の避難経路や場所を共に歩

き危険箇所の確認ができた。

3. 良質なケアが提供できるよう自己研鑽に励む
院外の研修参加は少ないが、ビデオ視聴を中心に個人が知識・技術の習得を行っている。
自部署への伝達講習は少なく、波及効果までには至っていない。

3 今後の課題

令和5年度は入居者に合わせた活動を取り入れて生活環境を整えた。今年度はさらに受け持ち担当職員を中心に、各ユニットで活動内容や環境づくりに対し検討会を実施し、検討内容に沿って実行する。そのためにも職員一人ひとりが研修参加や職務権限規程を元に行えるケアや業務を増やし自己研鑽に取り組む。

(文責：管理者・主任 野町 喜代)



高知市布師田・一宮地域包括支援センター

1 概要

所属長名：管理者 小松 めぐみ

構成職員：

看護師・介護支援専門員	2名
社会福祉士・主任介護支援専門員	1名
社会福祉士	1名
主任介護支援専門員・介護福祉士	1名
合計人数	5名



2 活動内容・目標に対する達成状況

目標

- 基本的な感染対策を継続し、コロナ禍で分断された社会とのつながりを取り戻すための積極的な支援の実施
 - ①：コロナ禍で減少した、いきいき百歳体操参加者を増やすため、参加中断中の方や、中止会場の元参加者の把握を行い、声掛け誘い出しを行う。
 - ②：オレンジカフェの再開、新規立ち上げ支援を行う。
 - ③：住民の活動や行事の継続、再開支援を行う。
- 大規模災害・感染症のBCP作成と大規模災害のBCPに沿った訓練の年1回の実施。
- 支給されているICT機器の機能を熟知し活用、タイムリーな情報提供および申請手続き支援など、地域住民への還元を図るとともに、機器を活用することで、業務のスリム化やできた時間で、自己研鑽を行うなど職員の質の向上につなげる。

1-③：コロナが5類移行となったことより、地域活動が活発化し、一宮ふれあいまつりやいっく交番まつりの開催を始め、その他地域活動への参加、支援を行えた。

2：大規模災害・感染症のBCP作成実施し、大規模災害を想定した訓練も年1回実施した。伝言ダイヤルの登録・再生の体験および避難訓練を実施することで修正点についての検討も実施、見直し作成を行えた。

3：訪問先でのインターネット検索によるタイムリーな情報提供や調整が行え、出直すなどのロスがなく、早急な対応や、遠方に住むご家族にZOOMで会議参加いただいたり、住民への還元が図れた。またタイムロスをなくしたことで、地域包括支援センターの職員として、参加を望まれる研修への参加機会も増え、自己研鑽に努めることができた。

3 今後の課題

- 高知市の高齢者を取り巻く現状からも、今年度も介護予防についての普及啓発の実施が必要。健康講座や体操会場継続支援や新規立ち上げ支援を実施していくとともに、地域とのつながり、安心して暮らし続けることができる地域支援・災害の備えとしての訓練など地域住民や関係機関と協働した取り組みを行うこと、また法人内でのさらなる連携強化を図りたいと考える。
- コロナが5類に移行し、地域活動もさらに活発となったことより業務も多忙を極めることから、快適な職場環境づくりに取り組んでいきたい。

(文責：管理者 小松 めぐみ)

達成状況

- 1-①：既存の体操会場へのつなぎ支援13名。新規会場の立ち上げ支援2会場27名の参加支援を実施。介護予防の普及が行えた。
- 1-②：既存のカフェすべて再開。相談ブース協力者についての相談を受け、新たな協力者の提案を行い協力者を増やすことができた。新規カフェの立ち上げ支援1件実施。継続した運営への助言や認知症家族のつなぎ支援など毎回実施し、認知症を学べる場、当事者・家族が集える場を身近な場所につなげることができた。

医療安全(感染)管理部門



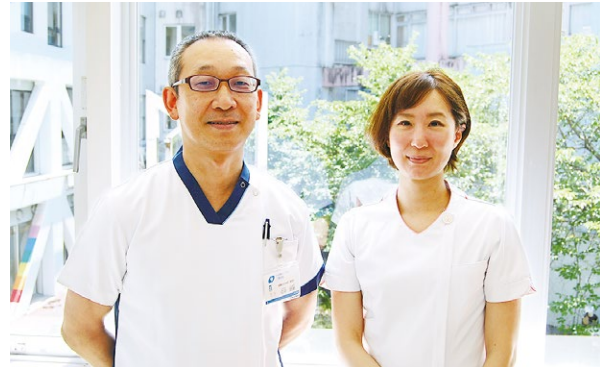
医療安全管理委員会／医療安全対策室

1 2023(令和5)年度 目的・目標

1. ヒューマンエラー防止のためのシステム改善
 - 1) 事例分析を行いシステム・マニュアルの見直しと立案した対策を院内に周知し評価を行う。
 - 2) 院内巡視でシステム・マニュアルの運用状況、遵守状況の確認を行う。
2. 研修計画
 - 1) ウイズコロナに対応し、参加率を高めるための研修計画と開催ができる。
 - 2) 医療安全管理に関する当院の基本姿勢ならびに基本知識を向上させ、安全文化の醸成を図る。
3. 院内巡回
 - 1) 定期的な院内巡回により、現場のリスク状況および5S状況の確認を行い、患者・職員の安全を確保するための改善につなげる。
4. 地域連携
 - 1) 病院間で意見交換および訪問評価を受け、医療安全対策推進と質の向上を図る。
 - 2) 病院間の情報共有を図り、医療事故防止の創意工夫を学ぶ。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
 - 1) 医療安全管理委員会開催: 毎月 第4火曜日
 - 2) 研修会の開催
 - ①「医療安全管理指針」「ブルーコールについて」
令和5年8月1日～8月31日 参加者: 録音スライド視聴258名(参加率91.8%)
 - ②「医療事故調査制度について」「インスリン製剤について」
令和6年2月19日～3月18日 参加者: 録音スライド視聴267名(参加率97.1%)
 - 3) 医療安全対策地域連携
 - ①医療安全地域連携加算Ⅰ・Ⅱ施設交流会
令和5年6月22日・令和6年3月1日
 - ②相互訪問評価
令和5年10月5日
 - 4) 院内巡回:
 - ①毎月 第1月曜日(実施した現場へフィードバックを行う)
 - ②令和5年9月・令和6年2月 薬剤部とマニュアル遵守確認の巡回
 - 5) 医療安全管理マニュアル点検、マニュアルの見直しと差し替え



2. 目標に対する達成状況

令和5年度ヒヤリハット報告件数は258件と前年度の362件より減少した。これは今年度介護医療院さんあい介護ソフトほのぼのの運用開始し、報告を介護ソフト内に入力するようにシステム変更があり、院内の報告件数集計から外れたことが影響している。介護医療院さんあいの令和5年度報告件数は96件であった。またコロナ病棟を10月末まで継続し、上期の入院患者数が少なかったことも要因となっている。11月に病棟再編が行われ、下期は入院患者が増えており、それに比例して報告件数も増えてきている。項目別としては治療・処置・看護ケアに関する報告件数が71件と一番多かったが、前年度の151件から半分に減少している。これも介護医療院さんあいの報告件数が病院集計から外れたことや、病棟再編後の患者レベルが日常生活自立度Cランクの患者からBランクの患者層へ変化し、スキnteアの高リスク患者の減少などが関係していると考えている。次いで与薬に関する報告件数が多いが、前年度比較では105件から50件へと減少している。これは各部署へのマニュアル遵守確認の巡回や啓発活動、持参薬から院内処方への切り替えや継続処方から定期処方への変更時のルールを決めるなど、システムやマニュアル見直しの成果と考えている。

医療安全研修は、録画視聴形式で2回開催した。研修視聴期間を1カ月と長めに設定したことや職員が自部署で視聴できるため、参加率は90%以上であった。

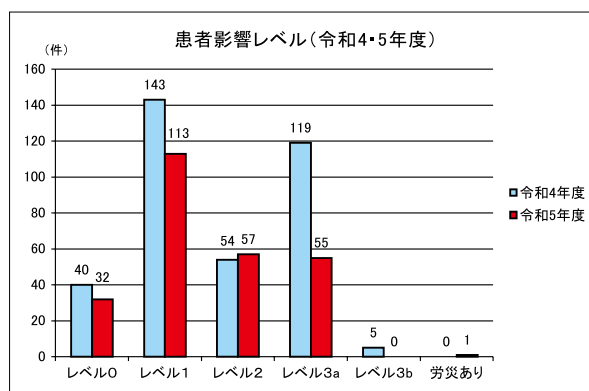
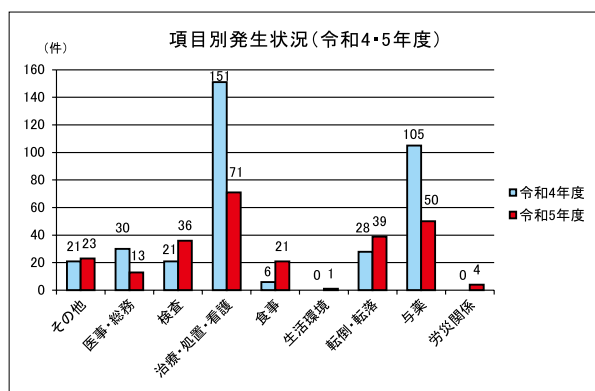
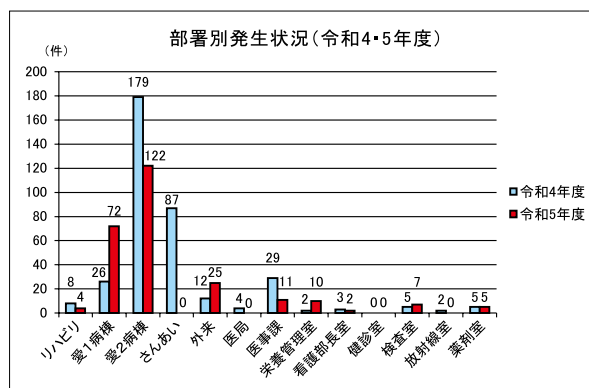
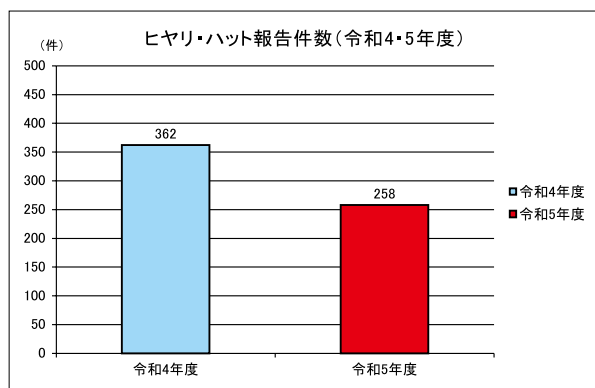
医療安全対策地域連携では、定期的な交流会の開催や訪問評価を受け、各施設の取り組みについての情報共有や院内巡回チェックリストの項目について助言をいただき、修正することができた。

医療安全院内巡回は、月1回の巡回を継続し、環境面の確認と必要時は施設課に依頼し、改善につ

なげることができた。今後も定期的な院内巡回や
啓発活動に積極的に取り組み、職員の医療安全意

識の向上を図っていきたい。

■ ヒヤリハット報告書集計 令和4年度は介護医療院さんあいの件数も含む



(文責：医療安全管理者 中平 好昭)



感染対策室／院内感染防止対策委員会

1 2023（令和5）年度 目的・目標

1. 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
2. ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制をつくる。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
 - 1) 委員会の開催（ICC：院内感染対策委員会、ICT：感染対策チーム、看護部感染委員会）
 - 2) 研修会の開催
 - ① 4月 感染対策指針
 - ② 7月 標準予防策
 - ③ 12月 感染症法の分類 ノロウイルス対策 嘔吐物処理方法
 - 3) 手指衛生遵守率向上のための取り組み
 - 4) 感染報告（毎月）指定抗菌剤使用届け報告（毎月）週間細菌検査検出状況（週報）
 - 5) ICT活動（手順書作成、院内環境ラウンド）
 - 6) 職業感染予防対策（新型コロナウイルス・インフルエンザ・B型肝炎ワクチン接種）
 - 7) 新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染症対応
 - 8) 感染防止対策加算施設との合同カンファレンスに参加（年4回）

2. 目標に対する達成状況

昨年度からリモート面会は導入していたが、入院満足度調査から直接面会を望む声が多数上がっており、直接面会を開始した。当院の入院患者は高齢者が大多数を占めており、コロナ禍以前のように対応することは難しく、完全予約制・人数制限等の制約を設け段階的に面会回数を増やしていった。該当部署の尽力があり、面会再開による大きなクラスターは発生していない。今後も、市中の感染状況を注視しながら面会拡大を検討していく。

コロナウイルスが流行して以降、インフルエンザウイルスの報告はなかった。しかし、今年度は全国的にインフルエンザウイルスが流行し、当院でも同室患者から相次いで罹患。残念ながら院内でクラスターが発生したが、感染経路別予防策による感染対策や予防投与を行い、終息することができた。

12月の研修内では、ノロウイルス・嘔吐物処理方法の実技を行った。インフルエンザウイルス同様、コロナウイルスが流行して以降は院内発生がなかった。そのため、多くの職員が吐物処理の手順を忘れていたが、研修を通して知識と技術を習得することができた。

（文責：感染防止対策委員会幹事 濱名 郁里）

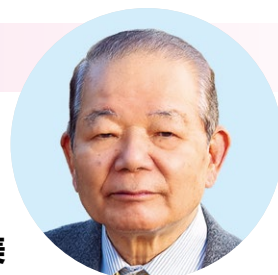
老人保健施設あうん高知

概要

1 概要

施設長：細木 秀美

副施設長：小松 雅理



施設長 細木 秀美

2 活動内容・目標に対する達成状況

2020（令和2）年1月の国内初発患者確認後、約3年半にわたる新型コロナウイルス感染症対応が、5月8日の5類移行をもって一区切りとなった。ただ、たくさんの入所者を預かる観点から、新規入所時に行っていた入所前検査は対象者の条件を見直した上で、一定期間は継続することとした。また、入所直後や医療機関受診後の感染隔離期間も条件変更や期間短縮を図った。面会については、カーテン越しの対応を継続し、週1回予約制とした。時期が異なる入所者および職員の陽性報告があったが、初期対応を徹底し感染拡大はなかった。結果、過去4年間、入所、通所リハビリ共にクラスター発生なしで経過した。

前年度から取り組み始めた介護ロボット導入プロジェクトは、9月に「令和5年度高知県介護事業所デジタル化支援事業費補助金」申請へとつながり、11月に支給決定を受け12月～年度末に向けて発注、付帯工事、研修開催、実施評価などを行った。導入機器は、眠リスクキャンなど40台、インカムなど10台、移乗支援ロボット1台であった。今後も導入目的を理解し、生産性向上に資するよう努める。

BCP（事業継続計画）策定については三愛病院と

連携して見直しを行った。部署ごとに机上訓練や実技訓練などを行い、日ごろからの備えについて周知を図った。また9月には、高知県大規模地震時医療活動訓練に介護施設として参加し、訓練コーディネーターとして派遣された日本DMA Tインストラクターの支援の下、自施設内での情報収集や対応、外部との連絡調整などの訓練を実施した。

地域活動や行事も少しずつ増え、講師派遣や一宮ふれあいまつりへの協力、地区の一斉清掃や運動会、音楽会などの交流が戻りつつある。コロナ禍で中断していたつながりの回復に向け、ますます地域活動に力を入れていく必要がある。

3 次年度の課題

1. 介護報酬改定（医療とのダブル改定）対応
2. コロナ5類移行対応およびBCP訓練実施
3. 施設長交代への対応
4. デジタル化機器の利活用と生産性向上
5. 地域活動および合同訓練の再開

（文責：副施設長 小松 雅理）



あうん高知入所

1 概要

病棟形態：介護老人保健施設 長期入所、短期入所

病床数：75床

所属長名：フロアマネージャー 嶋崎 由季

構成職員：看護師 5名

准看護師 6名

介護福祉士 20名

看護助手 6名

介護助手 2名

介護支援専門員 2名

支援相談員 2名

理学療法士 3名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

歯科衛生士 1名

合計人数 50名

2 2023（令和5）年度 目的・目標

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. サービスの質とチーム力を向上させる
3. 老健の事業継続のための取り組み

3 目標に対する取り組み

1. ベッド稼働率：86.7～94.2%。平均稼働率90.1%で昨年の87.5%を超えたものの目標達成はできなかった。申請施設への急な退所や死亡退所（過去最多の19名、うちターミナルケア加算算定は14名）後、次の入所受け入れまでにタイムラグがあったこと、受け入れ調整していた利用者の体調不良などによる急なキャンセルが影響したと考える。在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値：90）のポイントはおおむね在宅強化型の数値を維持（56～



68)。今年度は入退所前後訪問を積極的に実施。入所前後訪問では、退所後に生活する予定の自宅・施設の環境や生活課題を確認し、入所後の生活の中で到達すべき改善目標を設定。身体機能や生活動作の向上に取り組んだり、生活環境の改善に関する指導を行った。退所前後訪問で目標達成状況を確認し、退所後の生活で困ることがないように支援した。

2. 感染症対策は、院内の基準に基づいて面会制限や職員の行動制限を実施。利用者の状態や市中の感染状況に応じてフロア内のレイアウト見直し、利用者の過ごし方の工夫などを行った。年間を通じてバスレクや花見、一宮小学校との交流や認知症カフェへの講師派遣など地域活動も再開した。対面での家族カンファレンスも再開し、ケアプランや状態に関する説明を直接行い、コミュニケーションをとる機会を増やすよう努めた。

8・9月に利用者1名のコロナ陽性が判明。うち1名は施設内療養の対応をした。久しぶりの陽性者対応だったが、担当職員の固定、PPE着脱手順の再徹底など感染対策に努めた結果、部署内への拡大はなかった。サービスの質を向上させ

るために、部署内委員が他者評価と職員指導を実施。感染委員による手指消毒やPPE着脱の手技確認、吐物処理方法の指導、リスク委員による配薬手順確認、褥瘡委員によるポジショニング実技確認と指導、サービス向上委員による身だしなみチェックなどを実施した。高知県介護老人保健施設協議会の職種別研修などに参加し、施設職員として働くために必要な知識・技術の定着に取り組んだ。

3. 感染症・災害発生時も、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制構築を目指し、BCP策定、研修、訓練を実施した。9月に実施した高知県大規模地震時医療活動訓練では本部機能訓練を通して自施設での対応について考えることができた。生産性向上のための取り組みとして、インカム、眠りSCAN、eyeカメラ、移乗サポートロボット（Hug）を導入。インカム使用によりフロアを超えた報告・連絡・相談ができ、移動時間の削減や伝達抜かりの解消、より迅速な対応が可能になった。眠りSCAN、eyeカメラにて利用者の睡眠状態、覚醒、起き上がりや離床動作の検知ができ、必要な対応がタイムリーにで

2023（令和5）年度【部署名：あうん高知入所】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	介護保険施設サービスに関する研修（・看護 介護倫理・接遇を入所者、家族の視点で考える）	大谷支援相談員
5月	事故発生予防（危険予測）に関する研修	植田介護福祉士
6月	事故発生等緊急時の対応について（誤嚥、骨折等）、ブルーコール、BLS	藤田准看護師
7月	感染症（食中毒）予防及びまん延防止について	笹岡介護福祉士、森中看護主任
8月	BCPに関する研修・机上訓練（感染症発生時）	森中看護主任、嶋崎フロアマネージャー
9月	介護保険施設サービスに関する研修、看取りケア、エンゼルケア	堀田看護助手
10月	認知症及び認知症ケアに関する研修	溝淵介護福祉士
11月	感染症（感染性胃腸炎 インフルエンザ等）に関する研修	山下介護福祉士、笹岡看護助手
12月	プライバシー保護（個人情報保護）に関する研修	中山介護福祉士
1月	BCPに関する研修・机上訓練（自然災害発生時）	長瀬介護福祉士、嶋崎フロアマネージャー
2月	身体拘束廃止に関する研修	森岡ケアマネ
3月	非常災害時の対応に関する研修	嶋崎フロアマネージャー

きている。起立や立位保持が困難な利用者の移乗介助に移乗サポートロボット（Hug）を使用することで、これまで職員2名で介助していた場面も1名で軽介助対応できるようになった。いずれの機器も、業務の効率化、利用者・職員双方の負担軽減、サービスの質の向上につながっていると感じる。同じく生産性向上のための取り組みとして、介護助手を2～3名配置。シーツ交換、環境整備、物品補充など直接ケア以外の業務を任せる

ことで、看護・介護職員が利用者ケアに関わる時間が増えた。

4次年度の課題

1. 安定した施設運営
2. サービスの質とチーム力を向上させる
3. 働きやすい職場環境の整備

（文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季）



あうん高知 通所リハビリテーション「デイケア・ファイト」

1概要

病棟形態：あうん高知 通所リハビリテーション

病床数：24床

所属長名：三浦 恵子

構成職員：看護師 2名
介護福祉士 4名
看護助手 2名
理学療法士 1名
言語聴覚士 1名
運転手 1名
介護助手 1名
合計人数 12名



2令和5年度 目的・目標

1. 基本的な感染予防を継続する。中重度の利用者割合が多いことも考慮し体調不良時の早期発見と対応を行い病状の悪化を予防することができる。（1日利用平均17名を維持できるように曜日ごとの利用者数を調整する）
2. 職員の人材育成を行う（介護保険制度や各加算の算定要件の理解。ハウレンソウの徹底と現場での意見をとりまとめ、統一した提案を行い、実行、修正することができるリーダーを育成する）

3. 多職種間で意見を出し合い、利用者のその時々に応じたリハビリを実施し機能維持・回復を図る
4. BCP策定（大規模災害・感染症）と自部署や他部署、地域との訓練が実施できる

3目標に対する取り組み

1. 感染予防対策は継続して行い、新型コロナ感染が拡大することはなかった。体調不良の早期発見と対応を行ったことで重症化する利用者はなかった。当日のキャンセル数は減少したが、当日利用のキャンセルや入所、入院などもあり目標値を達

2023（令和5）年度【部署名：あうん高知通所リハビリテーション「デイケア・ファイト」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	サービス提供票の確認方法	三浦主任
5月	なぜ記録・事故報告書などを書くのか	三浦主任
6月	倫理・法令遵守について	頼田理学療法士
7月	感染症・食中毒の予防及び蔓延の防止	森川看護助手
8月	プライバシー保護について	吉川看護助手
9月	感染予防（インフルエンザ・ノロ対応・標準予防策）	山崎看護師
10月	認知症及び認知症ケアについて	田中介護福祉士
11月	身体拘束・虐待防止について	三浦主任
12月	非常災害時の対応について	山崎看護師
1月	事故発生などの緊急対応（交通事故・不審死）	田中介護福祉士
2月	接遇について	前田看護助手
3月	緊急時の対応に関する研修（福祉用具含む）	大坪言語聴覚士

成することができなかった。

2. 主任だけが、自部署の加算や算定条件を知っているだけではなくリーダーとなる職員にも加算などに関わる業務を指導していくことで、算定要件についての理解を深めることができるように取り組んだ。ホウレンソウは以前よりもできてはいるが、ケース記録に残すことや誰が報告したのかを迷う場面があり、今後も修正していく。
現場での統一した意見は抽出していく必要性は変わらず、利用者にとって何ができるのか今後も試行錯誤しながら取り組んでいく。
3. リハビリ会議やその他カンファレンスなど多職種での情報共有を図り、機能維持、回復に努めることができた。
卒業生2名を送り出し、令和6年度は移行支援体制加算を算定することができている。

4. 施設内にて想定した研修に参加と伝達を行った。
新入職員にも分かりやすいように自部署の勉強会に取り入れていく。

4 次年度の課題

1. 新規利用者の獲得に努め1日平均利用を17名以上で維持する
2. 報酬改定に伴い、新加算の算定要件を職員全員が理解し算定することができる（リハビリ会議の充実化を図る）
3. 卒業生を2名以上送り出すことができ、次年度も移行支援加算を算定する
4. 自己研鑽力を高め、自身の資格に恥じない継続学習を行う

（文責：介護主任 三浦 恵子）

委員会



褥瘡対策委員会

1 2023（令和5）年度 目的・目標

- 褥瘡回診・定例会の実施
DESIGN-Rを用いた評価・および検討を行い、褥瘡発生率1%以内・治癒率75%以上にする
- 予防活動

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
 - 褥瘡回診 1回/月（第3金曜日に変更した）
 - 委員会開催 褥瘡回診後に引き続き実施
 - 研修会・勉強会開催
- 目標に対する達成状況
褥瘡回診後、引き続き委員会開催とした。回診後の経過報告、コメディカルとの情報共有や必要事項の検討を実施。新型コロナクラスター時以外は、回診や委員会は開催した。
回診時についてラウンドする職員の見直しと、他委員にも分かりやすいようにレジメ・議事録への写真添付とした。
褥瘡の院内発生者は6名、発生率0.3%であり目標の1%以内はクリア。昨年度17名で発生率が0.7%であったため大幅な減少がみられる。うち、愛2病棟は院内発生なし。
発生部位は（持ち込み褥瘡も合わせる）、仙骨部7件・左踵2件・尾骨2件、後は1件ずつで右踵・右中背部・左背部・右臀部・両大転子・左腸骨（1人が複数部位あり）。
治癒はしているものの、状態悪化や老衰で死亡退院された方もいる。前年度からの持ち越しの両大転子部を見ていた方は、ずっとこのままの状態であろうとの見解で、令和6年3月より褥瘡カウントから外すこととした。治癒率の計算も含め令和6年度から新たに計算していくこととする。
持ち込み褥瘡は11件（昨年度15件）。

11月に病棟再編があり、コロナ後の入院患者数の増加を目指しながら、院内発生の件数はわずかとどまっており、多忙中でも皮膚トラブルに注意しながらケアを行ってくれていたのではないかと考える。

2022（令和4）年度は4件、今年度は報告件数が0件となっていた。報告抜かりの部分もあるかもしれないが、MDRPU予防に対する意識の向上や、良いケアができていると考える。
今後も、現状維持・早期発見に努める。

3. 予防活動

- ①クッションの適正使用・管理
- ②マニュアル・ルーチン処置の指導と周知
- ③勉強会の開催 新職員への指導強化

クッションの劣化や入院患者数の増加に伴い、必要数のクッションが足りていない状況であり、適宜購入していく。今まで使用していたものより安価なものを使用できるか評価もしてくれているが、良しあしがあつた。

看護部委員会では、今年度も各部署のラウンドは実施せず。次年度より、処置実施時の状況をラウンドしていく予定とした。MDRPUについての予防策がとれているのかは、各現場の委員が確認しており、統一した予防方法の実施と指導ができるように今後も指導・啓蒙活動を行っていく。

令和6年4月からMDRPU予防のマニュアルを修正するため、実施・評価しながら少しずつ開始する予定。

オンラインセミナーや自己研鑽のできる部分があるので、各委員は積極的にweb研修などに参加し、得た知識の情報共有をし、全体の底上げにつなげていく。

（文責：副委員長 大石 陵子）



栄養委員会

1 2023（令和5）年度 目的・目標

- 入院患者の低栄養状態を早期に発見し改善するために院内の体制を整える
- チームで低栄養状態に関する評価を行い適切な栄養療法を提案・実施する

3. 入院患者および入所者の提供栄養量に関わる事項について検討する
4. 入院患者および入所者の食事提供について検討する

2 活動内容・目標に対する達成状況**1. 活動内容**

- ・毎週木曜日 ラウンドとカンファレンスの実施
- ・勉強会の開催
- ・行事食の検討と計画
- ・栄養補助食品の検討
- ・衛生管理について
- ・食事提供について

2. 目標に対する達成状況

1. 入院患者の多くが高齢者であり身体機能や気力の低下によって、食事が減るケースが多くみられている。そのような患者に対して多職種共同で定期的にスクリーニングやモニタリングを行い低栄養患者の早期発見に努めた。
2. 毎週木曜日、多職種でラウンドとカンファレンスを行い、低栄養患者の摂取量や食事形態、嚥

下状態、精神状態、服薬状況などについて検討し適切な栄養療法を提案や実施した。令和5年度の延べ介入人数は481名であった。

3. 食事摂取量が低下している患者に対して必要栄養量が摂取できるように栄養補助食品について検討した。嚥下障害のある患者でも摂取できるふわとろ食感のパウチゼリーの試飲・試食を行った。
4. 入院および入所中の制限のある食事の中で少しでも楽しみや癒やしとしていただけるように四季折々の伝統行事や特別な行事の時に華やかな食事を提供できるように計画を立て献立に取り入れている。令和5年度は、年間34回の行事食を提供した。今後も入院患者および入所者に喜ばれる食事を提供できるように努めたい。

(文責：管理栄養士 石山 由香)

**薬事委員会****1 2023（令和5）年度 目的・目標**

医薬品の適正化並びに円滑化を図る。

2 活動内容・目標に対する達成状況

令和5年度の薬事委員会の開催は4回、行われた。新規採用剤数は14剤で、限定採用剤数は21剤となり合

計で35剤であった。また後発医薬品の使用率は令和4年度に引き続き後発医薬品の出荷停止や出荷調整の影響が続いているが、平成5年において82.2%となった。今後は注射薬や外用薬についても後発医薬品に変更していく予定である。

■ 2023（令和5）年度 薬事委員会 実績

	A	B	C	D	
	新規採用薬剤数	限定採用薬剤数	削除薬剤数	後発変更剤数 (先発品削除)	総 計
4月6日	5			7	12
7月6日	2	5		1	8
11月2日	2	6		1	9
3月7日	5	10	3		18
総 計	14	21	3	9	47
	採用品目 35 A + B		中止品目 12 C + D		

(文責：薬事委員会 委員長 小野 正英)

**安全衛生委員会****1 令和5年度 目的・目標**

1. 安全衛生を促進し、労働災害や健康リスクの予防を行い労働者の健康を保持増進する
2. 労働安全衛生法や各種ガイドラインなどの法令を遵守し労災事故の防止、職場環境の改善に努める
3. ストレスチェックを実施し、ストレスによる健康障害や心の病気の発症を予防する

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 毎月1回の定例委員会の開催と院内巡視

【定例委員会】

- ・安全衛生の課題や改善策について討議し、健全な職場環境の維持に努める。

【院内巡視】

- ・定期的な巡回を実施。職場の安全を確認し、問題があれば改善策を提案。
- ・令和5年度巡視では、前回巡視時指摘のあった

5カ所の事項について確認した所、1カ所については、改善されておらず、担当者に早急に改善していただくよう伝え、次回の巡視の際改めて確認することとした。

2. ●労災事故

- ・令和4年度 7件
業務災害:7件 通勤災害:なし
- ・令和5年度 11件
業務災害:10件 通勤災害:1件

労災事故発生件数は、前年と比較しやや増加していた。

この中で、長期休業に至ったのは、数件であった。新型コロナウイルスが5月8日から5類感染症へ移行されたことにより、少し気持ちにゆとりができたことも微増の要因と考えられる。

コロナ禍でのマンパワー不足を思いだし、職員には、今一度気を引き締めて労務にあたっていただくよう周知徹底を行いたい。

●超過勤務削減についての取り組み

昨年度に引き続き、超過勤務時間の多い2つの部署の各月の個人別および全職員の合計・平均超過勤務時間数の資料を作成し、毎月チェックを行った。

その資料を基に同月内で突出して超過勤務時間が多い職員、数カ月間を比較して時間数が大幅に増加した職員がいた場合、委員会より所属長に声掛けをし、聞き取り調査などを実施し現状の把握を行い委員会で改善案などを出しあった。

以前より実施しているこの部署は、昨年度の部署合計超過勤務時間が1,770時間であったが、本年度は1,442時間で前年と比較し約18.54%減少した。

着実に労働環境の改善が進んでいるものと思われる。

職員一人ひとりの努力・意識改革がこの要因の最も大きな部分を占めている。

また、ほとんどの職員が仁生会有給休暇または有給休暇を1カ月に少なくとも1日は取得できていた。

次年度は、課内の体制が大幅に変更になるため、超過勤務時間が増加することが予想される。

そのため、委員会として所属長と密に連携を取り、膨大な超過勤務により変調をきたすことがないよう、定時退勤できる際は、退勤しリフレッシュしていただくよう強く訴え、膨大な超過勤務が慢性的なものにならないようにしていきたい。

令和3年6月よりチェックを開始した、もう1部署は、昨年度の部署合計超過勤務時間が1,838時間、本年度が1,107時間で前年と比較し約39.77%減少した。

大幅な減少の要因として、業務の効率化・業務の割り振りが上げられる。

個人別で確認すると、一部超過勤務が突出している職員がいるため、健康面のことも考慮し次年度以降も委員会で話し合っていきたい。

3. ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を目的とし実施。

- ・調査対象者数:262名
- ・受検者数:238名(受検率:90.8%)
- ※受検率は、昨年とほぼ変わりなし。
- ※結果は、例年と同じような傾向であった。

ストレスが多い部署に対しては、各所属長に個別で組織別ストレス状況をお知らせすることにした。

4. ハラスメントについて

11月22日に仁生会顧問弁護士山岡真博先生によるハラスメント研修会を感染対策を考慮し、会場およびZoomで開催した。

また、とても有意義な研修であったため、研修動画を後日YouTubeにアップし、より多くの職員に研修内容を視聴していただけるようにした。

この研修で「ハラスメントの概念」「指導とハラスメントの違いは何か」など正しい知識を習得する良い機会になったと思われる。

今後業務を行う上で、今回得られた知識を基に職員が誰一人としてハラスメントの加害者・被害者にならないようにし、よりよい職場環境で、質の高い医療の提供をしていきたい。

(文責:委員長 岩井 智郎)



防災委員会

1 2023(令和5)年度 目的・目標

1. 消防訓練、風水害訓練の実施
2. BCPに対する理解を深める

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 消防訓練、風水害訓練は昨年と同じ時期に行った。
2. 防災講習としてBCPに対する講習を動画視聴形式で行い約200名が参加した。

3. 令和5年度第1回 洪水・土砂災害・津波避難訓練
も行い病院・事業所から津波避難所までの道を調査しながら利用者・担当者と避難を行った。

(文責：防災委員 鳴瀧 有人)



サービス向上委員会

当委員会は、患者さまから寄せられる苦情のほか、種々の病院サービス向上のための意見・提言を聴取することにより、患者さまへ質の高い医療サービスを提供するとともに、患者さまの満足度とケアの質を向上させることに努めます。また患者窓口や電話対応、外来診療時および入院中の患者さま、患者家族に対し丁寧で質の高い接遇を行えるよう努めます。

職員からも職場環境、患者サービス改善案などを意図的に収集し、働きやすい職場づくりに貢献すること、またを接遇におけるさまざまな課題の検討を行うことを目的に発足しました。

サービス向上のための各種アンケートや満足度調査を行い、患者さまや職員が抱える問題点を集計し検討を行い、より良い医療サービスを提供と良好な職場環境の創造を目指します。

令和5年度の主な取り組みは以下になります。

①令和5年度の主な取り組み

- ①ご意見箱の回収、対応、回答
- ②相談受付簿の検討、対応
- ③職場環境の改善、患者サービスの改善
- ④令和5年度三愛病院退院アンケートの集計、報告
- ⑤令和5年度介護医療院さんあい退院アンケートの集計、報告
- ⑥令和5年度三愛病院外来待時間調査の集計、報告
- ⑦新型コロナウイルス感染症に対応した面会などのサービスの変更や中止の検討
- ⑧代表回線通話録音機能の追加

(文責：事務部長 植田 宏平)



広報委員会

①2023（令和5）年度 目的・目標

1. ホームページの運営
2. せんだん便りの発行

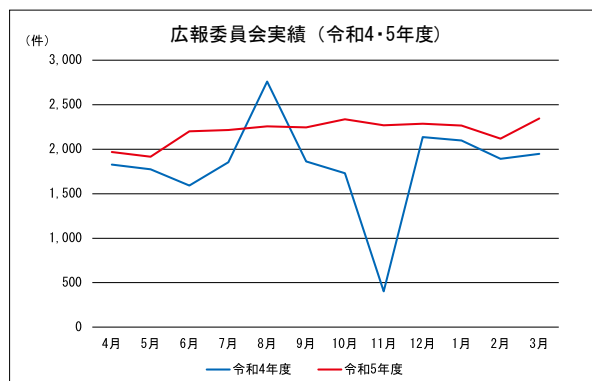
②活動内容・目標に対する達成状況

1. 令和4年度のリニューアルによりアクセス数が徐々に伸びてきている。
トップページに桜と職員を屋上から写した写真を掲載するようにした。
毎年の恒例にしていきたい。

■ 広報委員会 リニューアル後のアクセス数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和4年度	1,828	1,774	1,590	1,852	2,758	1,861	1,729	403	2,137	2,097	1,892	1,946
令和5年度	1,968	1,915	2,201	2,216	2,255	2,245	2,337	2,268	2,286	2,265	2,119	2,346

リニューアル後の設定が機能していなかったため12月～の数字が正確なアクセス数



(文責：広報委員 鳴瀧 有人)

三愛病院 2023（令和5）年度 院内研究発表会

開催日：2023年7月22日（土）
開催時間：13時30分～15時30分
開催場所：三愛病院 5 F 会議室
司会：濱田 未来
院内教育委員会委員長 橋詰 稔
座長：野町 喜代

13:30 開会
13:35 一般演題発表

No	演 題	部署等	発表者
1	コロナ禍における病児保育の取り組み ～3年間を振り返って～	外来	千頭 明子
2	当院のNST活動について	NST委員会	大石 陵子
3	地域包括ケア病床における運用実態について	地域医療連携室	戸田 里子
4	虐待を見聞きしたらまずは包括に一報を！	高知市布師田・一宮 地域包括支援センター	下本 幸治

14:20 《休憩 10分 換気》

14:30 プレゼン発表

座長：片岡 典代

No	プレゼン発表	部署等	発表者
1	在宅復帰のすばらしさ ～その人らしさを看ること～	愛2病棟	鈴木 梨瀬
2	「基本を大切に」 ～確認・相談の重要性と、それを「出来る」にするために～	愛2病棟	谷脇 爽

15:00 《休憩 10分 換気》

15:10 講評・結果発表・各賞授与

審査結果まとめ
院長 中村 寿宏

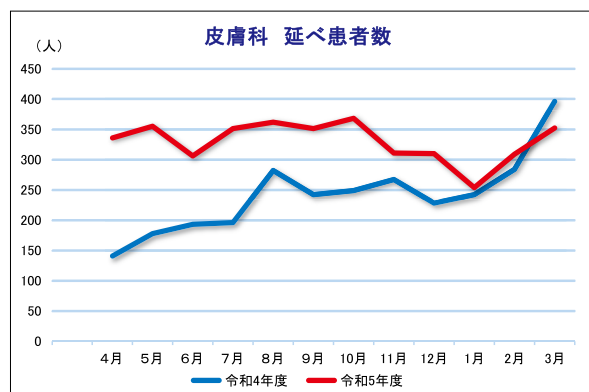
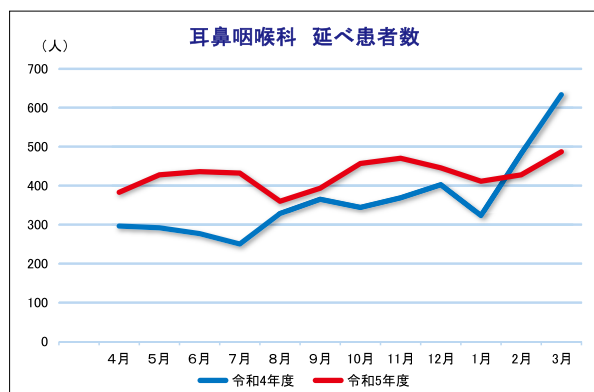
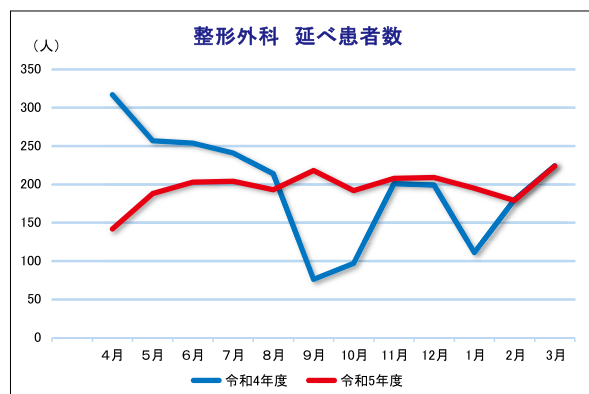
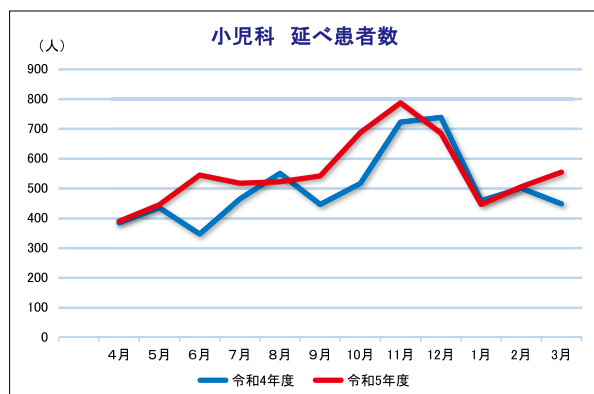
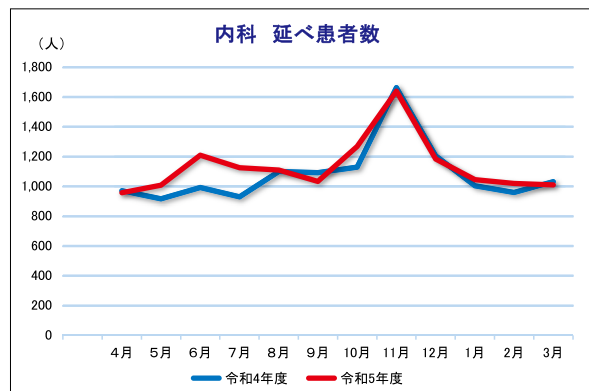
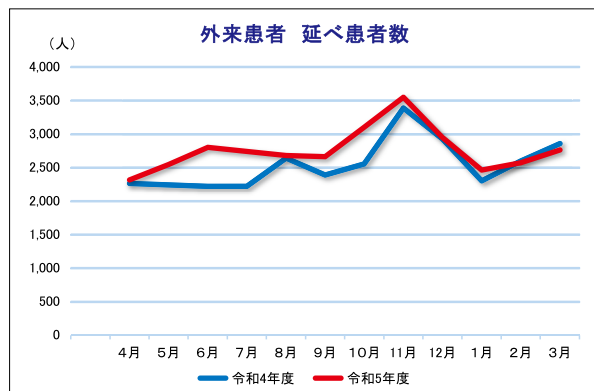
15:30 閉会
(片付け・写真撮影)



診療部

■ 2023(令和5)年度 外来患者数統計

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	1,870	2,036	2,070	2,170	2,145	2,106	2,431	2,883	2,369	2,095	2,103	2,250	26,528
延べ患者数(人)	2,318	2,545	2,801	2,744	2,683	2,663	3,103	3,550	2,950	2,466	2,571	2,763	33,157
平均患者数(人)	97	106	108	110	103	111	124	148	118	107	112	111	112.8
新患者数(人)	80	62	93	129	120	86	107	120	109	70	115	77	1,168



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

細木病院

三愛病院
あうん高知

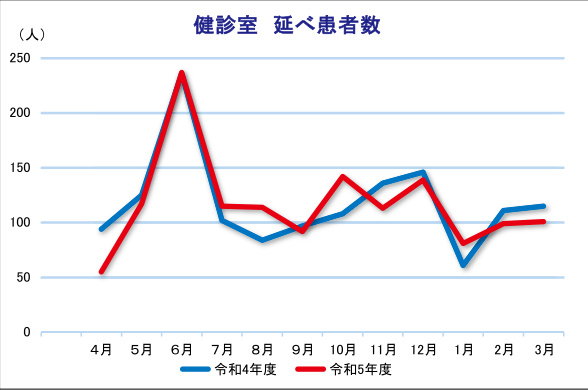
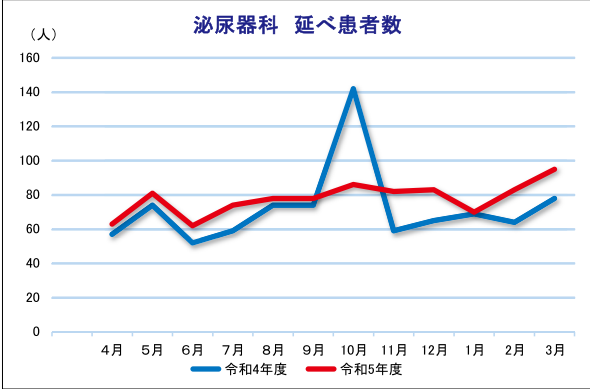
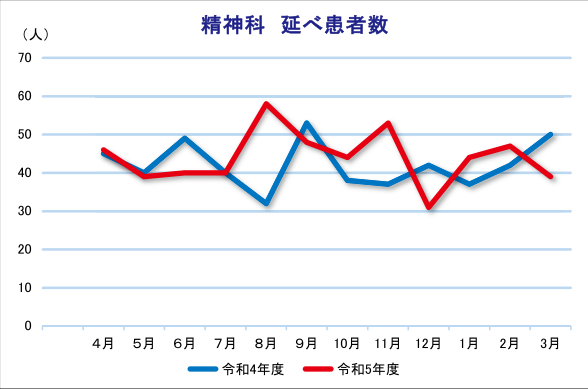
日高クリニック

本部

アドレス・高知

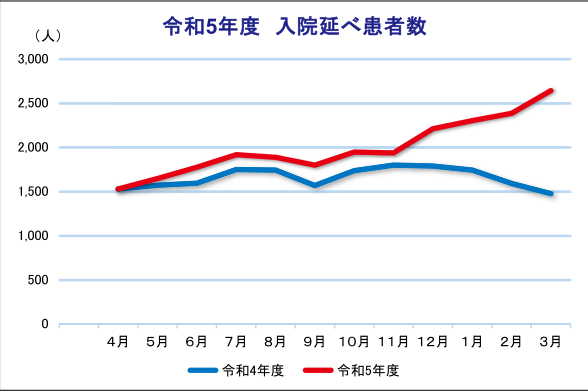
福寿園

積善会



■ 2023(令和5)年度 入院患者数統計

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	52.0	54.3	60.4	63.1	62.1	61.2	64.1	65.9	72.8	75.9	84.0	87.0	66.9
延べ患者数(人)	1,530	1,649	1,777	1,918	1,888	1,799	1,948	1,938	2,211	2,305	2,386	2,644	1,999
平均患者数(人)	51.0	53.2	59.2	61.9	60.9	60.0	62.8	64.6	71.3	74.4	82.3	85.3	65.6



看護部

■ 2023（令和5）年度 病棟別業務実績

愛1病棟（障害者施設等） 業務実績

令和5年10月まで 38床 障害のみ（このうち8床 新型コロナ感染患者受け入れ）（新型コロナ重点医療機関）
 令和5年11月～病棟再編 愛1病棟 38床→53床（障害43床・地域包括ケア入院医療管理料1 10床）

病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等	稼働率（％）	8.2	12.0	22.7	25.8	24.4	23.6	29.6	48.0	61.4	64.6	76.2	81.0	39.8
地域包括ケア	延べ人数（人）	93	141	259	304	288	269	349	763	1,008	1,062	1,171	1,331	587
入院医療管理料1	平均患者数（人）	3.1	4.5	8.6	9.8	9.3	9.0	11.3	25.4	32.5	34.3	40.4	42.9	19.3

愛2病棟（障害者施設等） 業務実績

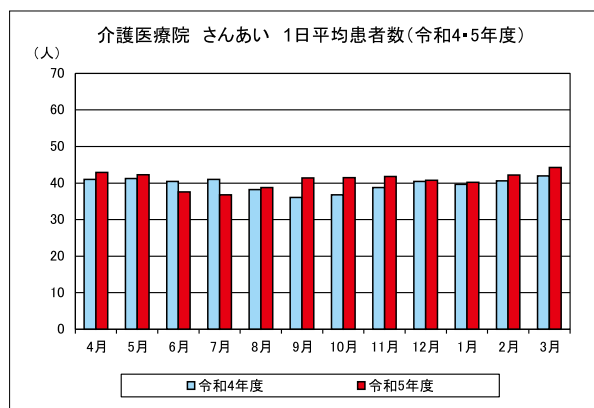
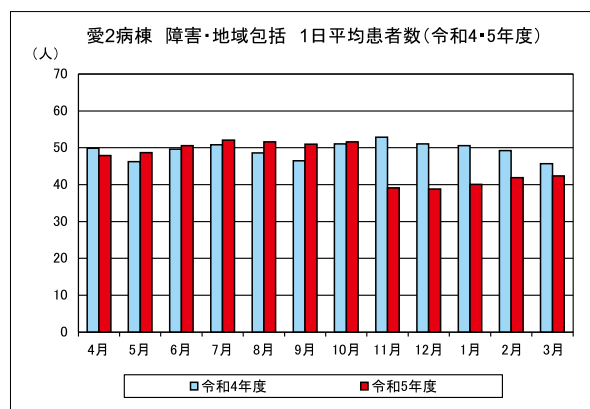
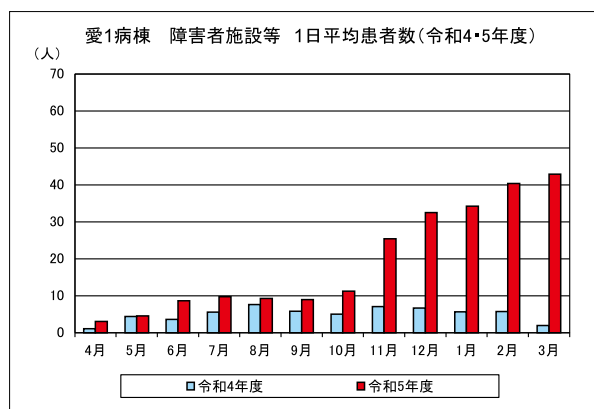
令和5年10月まで 60床（障害50床・地域包括ケア入院医療管理料1 10床）
 令和5年11月～病棟再編 愛2病棟 60床→45床 障害のみ

病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等	稼働率（％）	79.8	81.1	84.3	86.8	86.0	85.0	86.0	87.0	86.2	89.1	93.1	94.1	86.6
	延べ人数（人）	1,437	1,508	1,518	1,614	1,600	1,530	1,599	1,175	1,203	1,243	1,215	1,313	1,413
	平均患者数（人）	47.9	48.6	50.6	52.1	51.6	51.0	51.6	39.2	38.8	40.1	41.9	42.4	46.3

介護医療院 さんあい 業務実績

病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護医療院	稼働率（％）	89.4	88.1	78.3	76.6	80.7	86.2	86.4	87.2	84.9	83.8	87.9	92.1	85.1
さんあい	延べ人数（人）	1,288	1,311	1,127	1,140	1,201	1,241	1,285	1,255	1,264	1,247	1,224	1,371	1,246
（48床）	平均患者数（人）	42.93	42.29	37.57	36.77	38.74	41.37	41.45	41.83	40.77	40.23	42.21	44.23	40.9

■ 病棟別1日平均患者数（前年度比）



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

医療技術部門

■ 2023（令和5）年度 薬剤室業務実績

薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	22	8	25	36	27	26	43	57	48	54	53	32	431
外来処方箋件数（注射）	163	214	227	224	244	232	223	201	268	188	194	207	2,585
入院処方箋件数	1,378	1,187	1,399	1,528	1,575	1,294	1,640	1,397	1,764	1,831	1,782	1,843	18,618
入院処方箋件数（注射）	968	970	1,685	1,243	993	998	1,216	985	1,237	1,214	1,373	1,393	14,275
併設あうん高知 処方箋件数	428	301	395	317	336	448	332	337	422	341	407	462	4,526
併設あうん高知 処方箋件数（注射）	16	28	13	17	43	47	56	36	43	37	43	20	399
服薬指導件数	3	1	4	2	3	2	3	2	2	0	0	3	25
検薬件数（持参薬）	17	24	9	21	18	15	13	20	22	20	22	20	221
併設あうん高知 検薬件数	6	13	3	4	7	3	6	8	3	8	11	6	78

薬剤室 処方箋枚数

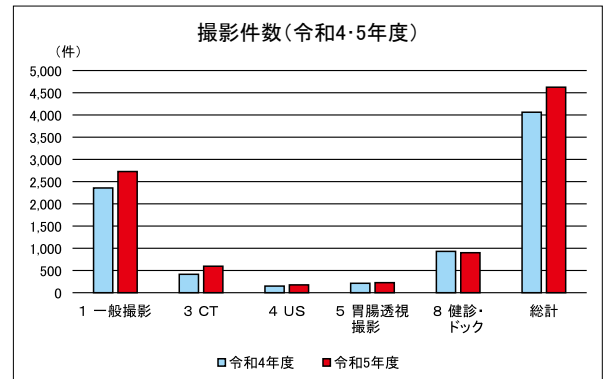
年度	外来（内服）	外来（注射）	入院（内服）	入院（注射）	あうん高知（内服）	あうん高知（注射）
令和4年度	241	1,603	5,574	8,425	1,652	230
令和5年度	333	1,604	6,115	7,878	1,854	299

薬剤室 処方件数

年度	外来（内服）	外来（注射）	入院（内服）	入院（注射）	あうん高知（内服）	あうん高知（注射）
令和4年度	338	2,860	14,362	16,712	4,380	278
令和5年度	431	2,585	17,918	14,275	4,526	399

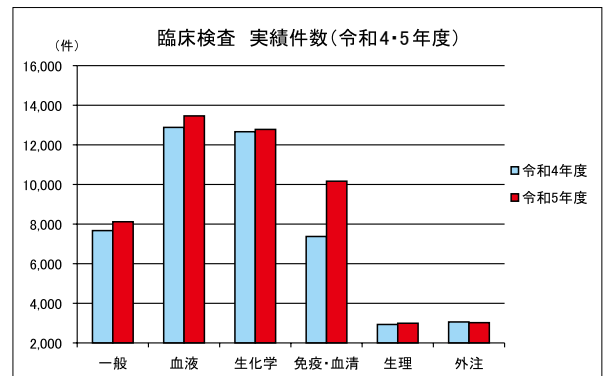
■ 放射線室 撮影件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比
1 一般撮影	2,357	2,727	116%
3 CT	414	596	144%
4 US	149	176	118%
5 胃腸透視撮影	212	226	107%
8 健診・ドック	930	900	97%
総計	4,062	4,625	114%



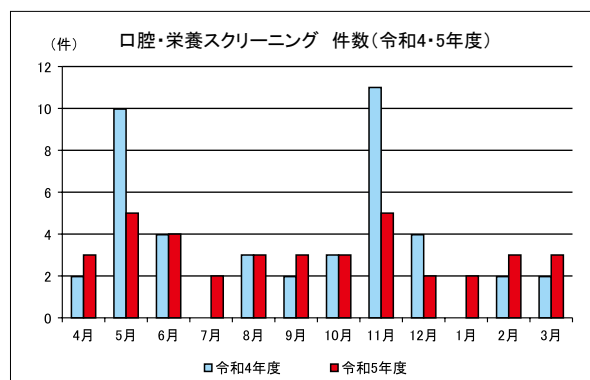
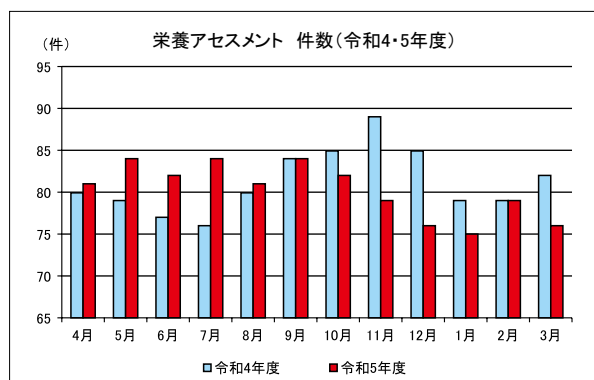
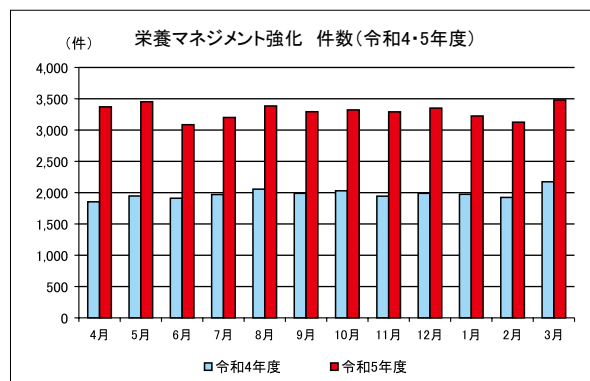
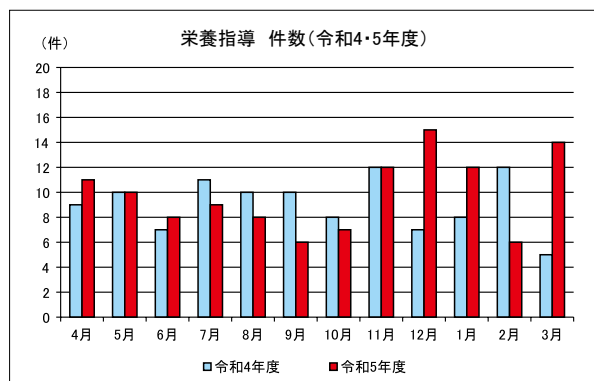
■ 臨床検査室 検査業務実績件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比
一般	7,671	8,118	106%
血液	12,882	13,462	105%
生化学	12,663	12,780	101%
免疫・血清	7,374	10,166	138%
生理	2,932	2,994	102%
外注	3,059	3,023	99%



■ 栄養管理室 業務実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	令和4年度	9	10	7	11	10	10	8	12	7	8	12	5
	令和5年度	11	10	8	9	8	6	7	12	15	12	6	14
栄養マネジメント強化	令和4年度	1,854	1,947	1,911	1,970	2,056	2,005	2,030	1,944	1,990	1,974	1,924	2,174
	令和5年度	3,371	3,453	3,086	3,201	3,385	3,293	3,322	3,291	3,351	3,225	3,126	3,481
栄養アセスメント	令和4年度	80	79	77	76	80	84	85	89	85	79	79	82
	令和5年度	81	84	82	84	81	84	82	79	76	75	79	76
口腔・栄養スクリーニング	令和4年度	2	10	4	0	3	2	3	11	4	0	2	2
	令和5年度	3	5	4	2	3	3	3	5	2	2	3	3



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

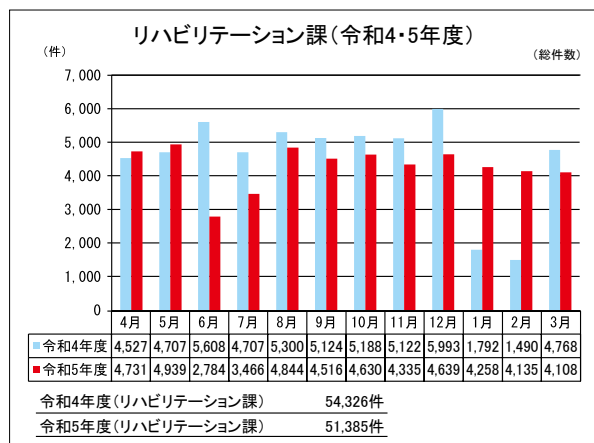
アドレス・高知

福寿園

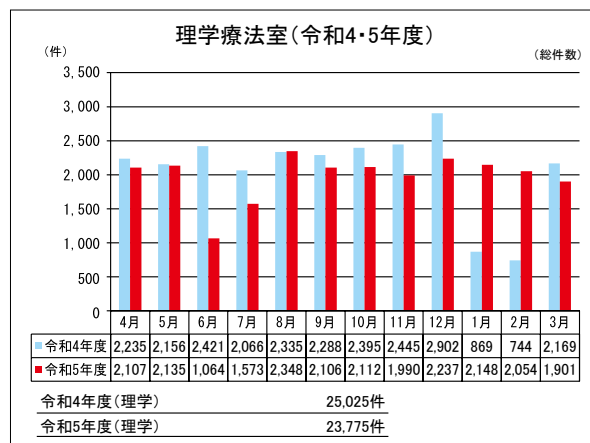
積善会

■ 2022（令和4）年度 リハビリテーション課 業務実績

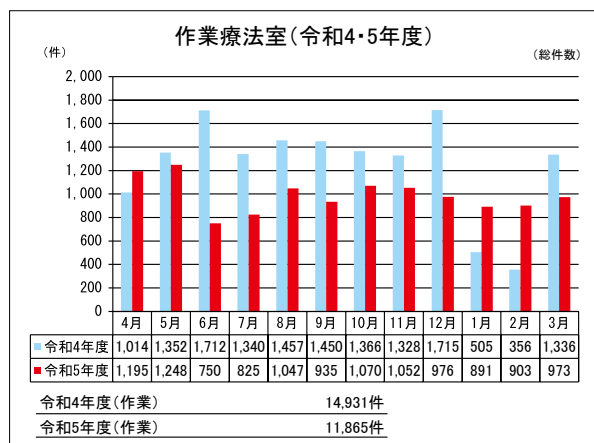
リハビリテーション課



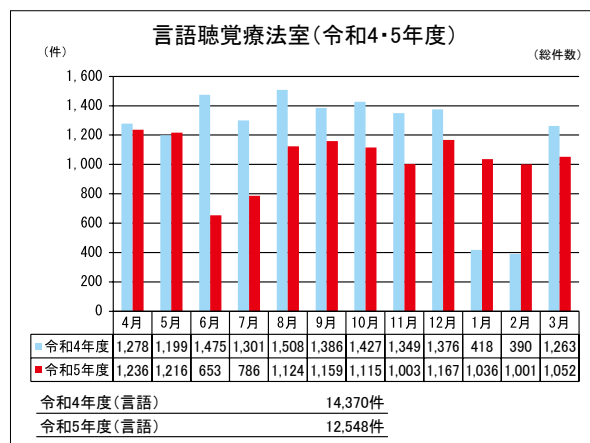
理学療法室



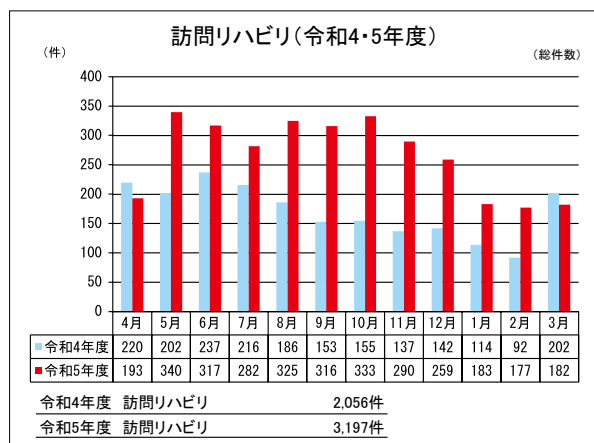
作業療法室



言語聴覚療法室



訪問リハビリテーション



在宅部門

■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 介護保険利用者数(人)	116	112	120	120	120	122	123	121	122	119	121	121	1,437	120
令和4年度 介護予防利用者数(人)	20	20	20	22	22	22	23	22	22	21	19	19	252	21
令和5年度 介護保険利用者数(人)	118	116	111	111	114	110	115	110	107	106	105	106	1,329	111
令和5年度 介護予防利用者数(人)	17	18	18	20	19	19	19	19	20	20	20	20	229	19

■ デイサービスいろは 業務実績 サービス種類:通所介護・総合事業

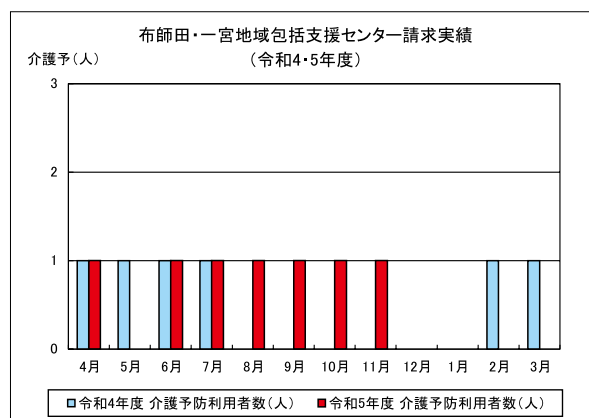
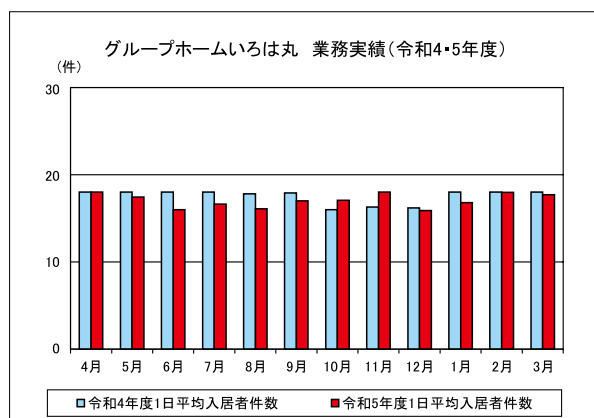
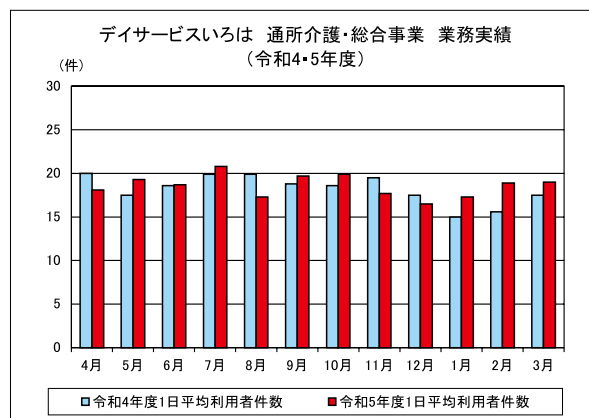
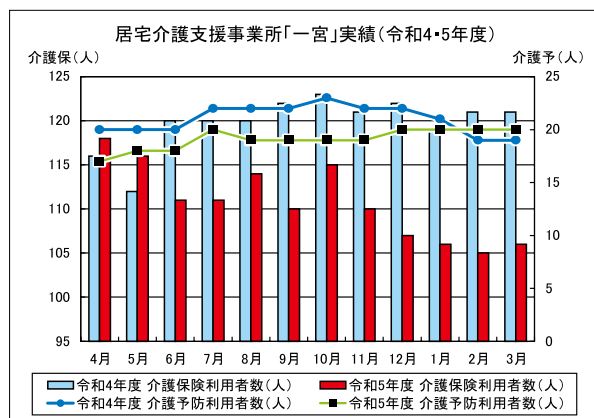
病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所介護・総合事業	稼働率(%)	60.4	64.3	62.4	69.4	57.8	65.8	66.4	59.1	54.9	57.7	63.1	63.2	62.0
	延べ人数(人)	453	521	487	541	468	513	518	461	428	433	473	493	482.4
	1日平均利用者件数(件)	18.1	19.3	18.7	20.8	17.3	19.7	19.9	17.7	16.5	17.3	18.9	19.0	18.6

■ グループホームいろは丸 業務実績

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	100	97	89	92	89	94	95	100	88	93	100	98	95
延べ入居者数(人)	540	541	480	516	499	510	529	540	493	521	521	549	520
1日平均入居者数(人)	18.0	17.5	16.0	16.6	16.1	17.0	17.1	18.0	15.9	16.8	18.0	17.7	17.1

■ 高知市布師田・一宮地域包括支援センター 請求実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 介護予防利用者数(人)	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	6	1
令和5年度 介護予防利用者数(人)	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	7	1



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

老人保健施設あうん高知

あうん高知 業務実績

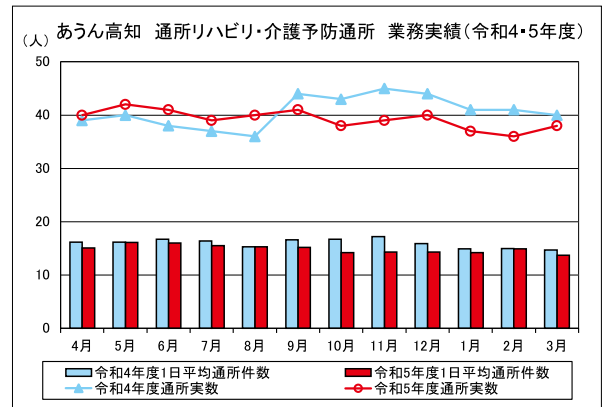
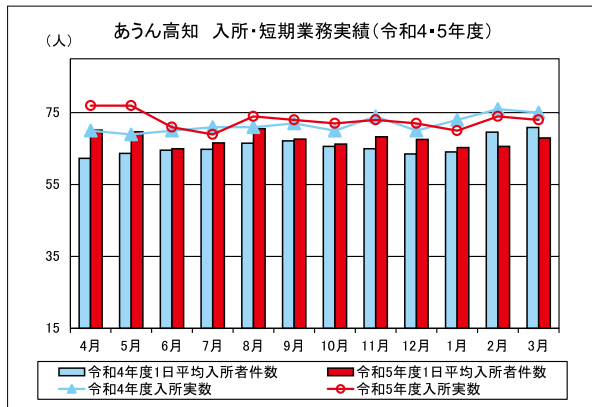
サービス種類:入所・短期

病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	93.6	92.9	86.7	88.8	94.2	90.3	88.4	91.1	90.2	87.1	87.5	90.7	90.1
	延べ患者数(人)	2,106	2,160	1,951	2,064	2,190	2,032	2,056	2,050	2,097	2,025	1,903	2,108	24,742
	1日平均利用者件数(件)	70.2	69.7	65.0	66.6	70.6	67.7	66.3	68.3	67.6	65.3	65.6	68.0	67.6
	在宅復帰率(%)	63.2	50.0	58.8	61.1	52.9	61.9	54.2	57.9	50.0	57.1	59.1	60.0	

あうん高知 業務実績

サービス種類:通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・介護予防通所	稼働率(%)	62.8	67.1	66.8	64.7	63.6	63.5	59.0	59.6	59.5	59.2	62.0	57.1	62.1
	延べ患者数(人)	377	435	417	404	412	396	368	372	371	341	372	356	385
	1日平均利用者件数(件)	15.1	16.1	16.0	15.5	15.3	15.2	14.2	14.3	14.3	14.2	14.9	13.7	14.9



■ 診療部

内科

□ 座 長

1. 中村寿宏：「高齢者糖尿病患者の糖尿病治療～現状と今後の課題～」、東京健康長寿センター副院長 荒木 厚、第61回 高知県糖尿病談話会、オンライン、2023年5月19日
2. 中村寿宏：「糖尿病内科に求められるAct Against Amputation」、医療法人社団青泉会下北沢病院 糖尿病センター長 富田益臣、第8回 高知足を学ぶ会、高知市（Web／ハイブリッド）、2023年9月22日

■ 看護部

外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

□ 座 長

1. 片岡典代：「教育講演2 運動療法を継続させるための支援のコツ」、関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科、野村卓生、第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、岡山市、2023年9月23日

□ その他

1. 片岡典代：日本糖尿病教育・看護学会ネットワーク委員会（高知県委員）
2. 片岡典代：高知県糖尿病性腎症重症化予防プログラム糖尿病アドバイザー派遣事業、中土佐町、2023年6月26日
3. 大西美紀、片岡典代：令和5年度血管病調整看護師活動、2023年4月～2024年3月

■ 医療技術部門

栄養管理室

□ 表 彰

1. 三愛病院 栄養管理室：「令和5年度栄養関係功労者高知県知事表彰」、高知県、高知県、2024年2月9日

リハビリテーション課

□ 学会・研究会

1. ○貞光梨沙：「6年間の経鼻栄養から経口摂取へ移行した症例」、第31回慢性期医療学会、大阪府大阪市、2023年10月19日
2. ○田島一樹：「健康教室への参加が健康意識や行動変容に与える影響」、第37回高知県理学療法学会、高知市、2024年3月24日

□ 講演（講習会を含む）

1. 田島一樹、高橋良昌：「体力測定会 自身の体力を知ろう！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年4月13日
2. 松坂篤：「ストレッチで健康的な身体になろう！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年4月27日
3. 武市美貴子：「お酒と上手につきあう方法と健康的な体づくり」、マルナカ高知紡、高知市、2023年5月11日
4. 濱田くるみ：「呼吸を整え健康になろう」、マルナカ高知紡、高知市、2023年5月25日
5. 田島一樹：「ストレッチと筋トレで転倒予防！」、香美市社会福祉協議会、香美市、2023年5月25日
6. 貞光梨沙：「災害時におこる健康被害とは？」、マルナカ高知紡、高知市、2023年6月8日
7. 高橋良昌：「ウォーキングと健康寿命の関係」、マルナカ高知紡、高知市、2023年6月22日
8. 田島一樹：「ハンドル体操をやってみよう！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年7月13日
9. 葛岡知佐子：「いきいきシェイプアップ」、香美市社会福祉協議会、香美市、2023年7月13日
10. 森本愛：「後姿を美しく！引き締めトレーニングの紹介」、マルナカ高知紡、高知市、2023年7月27日
11. 門脇貴代：「熱中症にならない！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年8月10日
12. 田島一樹、山本潤：「体力測定会」、マルナカ高知紡、高知市、2023年8月24日
13. 谷口桃子：「表情筋トレーニングで若々しく健康に！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年9月14日
14. 大原加有里：「脳とカラダを同時に刺激！！」、マルナカ高知紡、高知市、2023年9月28日
15. 高橋良昌、松坂篤：「体力測定会」、香美市社会福祉協議会、香美市、2023年9月28日

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

16. 葛岡知佐子：「年を重ねても美しい姿勢でいたい」、マルナカ高知紡、高知市、2023年10月12日
17. 弘田美幸：「くちトレで誤嚥予防 口唇・舌・喉を鍛えよう」、マルナカ高知紡、高知市、2023年10月26日
18. 濱田くるみ：「おしっこのはなし 尿トラブルを解決しよう」、マルナカ高知紡、高知市、2023年11月9日
19. 高橋良昌：「お尻年齢はいくつ?」、マルナカ高知紡、高知市、2023年11月24日
20. 松坂篤：「テニスボールで筋膜リリース」、マルナカ高知紡、高知市、2023年12月14日
21. 田島一樹、山本潤：「体力測定会と年末年始に気を付けること」、マルナカ高知紡、高知市、2023年12月28日
22. 竹倉佐和子：「冬になると上がりやすい血圧を下げる運動と食事」、マルナカ高知紡、高知市、2024年1月11日
23. 森本愛：「温活しましょう」、マルナカ高知紡、高知市、2024年1月25日
24. 武市美貴子：「自律神経を整えよう」、香美市社会福祉協議会、香美市、2024年1月25日
25. 田島一樹：「転倒予防についてのお話し」、一宮コミュニティ計画推進市民会議、高知市、2024年2月1日
26. 貞光梨沙：「喫煙による健康被害」、マルナカ高知紡、高知市、2024年2月8日
27. 大原加有里：「みんなでコグニサイズ」、マルナカ高知紡、高知市、2024年2月22日
28. 山本潤：「今から予防！膝の変形と痛み」、薊野西三五クラブ、高知市、2024年2月26日
29. 弘田美幸：「お口の機能と健康寿命」、香美市社会福祉協議会、香美市、2024年2月29日
30. 田島一樹：「エコノミークラス症候群について」、マルナカ高知紡、高知市、2024年3月14日
31. 濱田くるみ：「転倒しない靴の選び方」、香美市社会福祉協議会、香美市、2024年3月14日
32. 武市美貴子：「春バテに注意!」、マルナカ高知紡、高知市、2024年3月28日

□取材

1. 田島一樹：「紡 健康教室について」、高知新聞、2023年11月9日

■ 在宅部門

居宅介護支援事業所「一宮」

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 和田真樹：「令和5年度介護支援専門員更新研修（実務未経験者）/再研修」、社会福祉法人高知県社会福祉協議会（高知県指定研修実施機関）、高知市、2023年10月21日
2. 和田真樹：「令和5年度介護支援専門員実務研修/再研修」、社会福祉法人高知県社会福祉協議会（高知県指定研修実施機関）、高知市、2023年12月16日

□その他

1. 和田真樹：高知市居宅介護支援事業所協議会会長、高知市地域包括支援センター運営協議会委員、高知市地域包括支援センター運営業務プロポーザル選定委員会委員、認知症になっても安心して外出できる街を考える会委員（生活支援体制整備事業における第1層協議体）、社会福祉法人高知市社会福祉協議会評議員

高知市布師田・一宮地域包括支援センター

□講演（講習会を含む）

1. 池内智子、小松めぐみ：「知っておきたい介護保険」、住民、高知市薊野、2023年6月7日
2. 池内智子、伊藤由香、公文信吾：「認知症サポーター養成講座」、マルナカ高知インター店、高知市一宮、2023年6月26日
3. 伊藤由香：「認知症サポーター養成講座」、高知刑務所、高知市布師田、2023年7月28日
4. 下本幸治：「自立支援について」、住民、高知市、2023年8月1日
5. 下本幸治、小松めぐみ：「成年後見制度について」、一宮市民会館、高知市一宮、2023年8月2日
6. 下本幸治、池内智子、公文信吾：「みらいの不安に備える仕組み 成年後見制度」、千歳会、高知市一宮、2023年8月29日
7. 伊藤由香、小松めぐみ：「高齢者虐待防止について」、一宮民生委員、高知市一宮、2023年9月12日
8. 伊藤由香、池内智子：「高齢者虐待防止について」、布師田民生委員、高知市布師田、2023年9月14日
9. 池内智子、公文信吾：「ほおっちょけん学習会」、社会福祉協議会、高知市一宮、2023年10月24日
10. 下本幸治、小松めぐみ：「想いをかなえるノート」、一宮老人クラブ、高知市一宮、2023年11月15日
11. 池内智子、伊藤由香：「認知症サポーター養成講座」、高知県立高知東高等学校、高知市一宮、2024年2月16日

12. 池内智子、小松めぐみ：「健康講座」、住民、高知市薊野、2024年2月20日
13. 下本幸治：「介護保険について」、千歳会、高知市一宮、2024年2月22日
14. 下本幸治：「想いをかなえるノート」、マルナカオレンジサロン、高知市一宮、2024年3月15日

■ あうん高知

□ 学会・研究会

1. 小松雅理：「地域包括ケアシステムの具現化において、老健に期待される役割～住み慣れた地域で最期までを支援する覚悟～」、四国老人福祉学会（第42回大会）、四国老人福祉学会、松山市、2024年3月2日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 小松雅理：「令和5年度 介護労働講習 介護職員の自覚と健康管理」、（公財）介護労働安定センター高知県支部、高知市、2023年7月26日
2. 竹口伸也：「認知症カフェ 荒川ころばん体操」、一宮コミュニティ計画推進会議、高知市、2023年12月7日

□ 取 材

1. 島崎耀布、山本健三、小松雅理：「いきいきと働く介護職員」、ふくし就職フェアPR用、RKC高知放送、2023年7月7日

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

依 頼 元 名	延べ人数
看 護 部 (愛1病棟)	
高知開成専門学校 (1年生)	3
高知開成専門学校 (2年生)	3
(愛2病棟)	
高知開成専門学校看護学科 (1年生)	3
高知開成専門学校看護学科 (2年生)	2
合 計	11
医療技術部 (栄養管理室)	
高知学園大学 健康科学部	7
(リハビリテーション課)	
土佐リハビリテーションカレッジ (2年次)	1
土佐リハビリテーションカレッジ (3年次)	2
合 計	10
在 宅 部 門 (居宅介護支援事業所「一宮」)	
高知県介護支援専門員実務研修見学実習・社会福祉法人高知県社会福祉協議会	1
(高知市布師田・一宮地域包括支援センター)	
近森病院附属看護学校	4
龍馬看護ふくし専門学校	2
合 計	7
事 務 部 (医事課)	
四国医療工学専門学校 医療情報学科	10
合 計	10
あうん高知 (入所)	
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	46
(通所リハビリテーション)	
高知県立大学 社会福祉学部 (1回生)	3
合 計	49
三愛病院総計	87